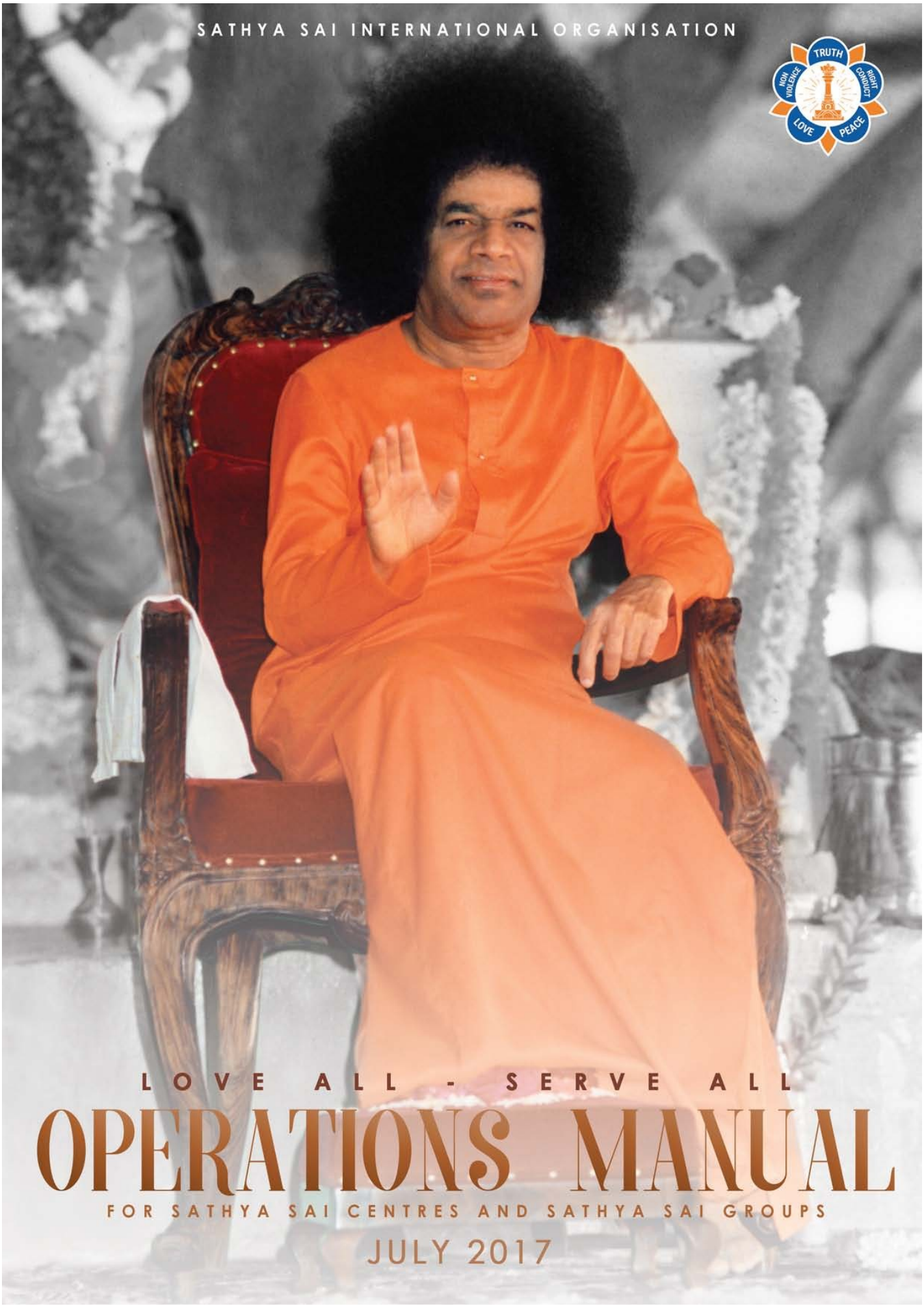
SATHYA SAI INTERNATIONAL ORGANISATION



LOVE ALL - SERVE ALL

OPERATIONS MANUAL

FOR SATHYA SAI CENTRES AND SATHYA SAI GROUPS

JULY 2017

サティヤ サイ センターとサティヤ サイ グループのための

運営マニュアル

2017年7月

サティヤ サイ 国際 オーガニゼーション

すべてのメディアにおける本文書の版権・著作権を有するサティヤ サイ国際オーガニゼーションの事前の許可なしに、本文書の一部または全部の原文および翻訳文を複写・転載すること、検索システムに取り込こむこと、電子的、機械的、いかなる形式、手段で複写、記録することを禁じます。

制作：サティヤ サイ 国際 オーガニゼーション
www.sathyasai.org

目次

第１章:
はじめに 7

第２章:
サティヤ サイ センターのプログラムと活動

サティヤ サイ センターとサティヤ サイ グループ 8
サティヤ サイ センターとサティヤ サイ グループの結成 9
会員制 9
サティヤ サイ センターの役員 10
文化的観点 11
教育部 12
スタディーサークル 13
サイ霊性(スピリチュアル)教育(SSE)プログラム 14
子供と親 17
SSE の教師 18
地域社会でのSSEHV 18
信愛部 18
原則 19
信愛の会 20
集団での信愛の歌のコーディネートと練習会 22
新しく来た人とビジターを歓迎する 22
奉仕部 23
原則 24
奉仕プロジェクトのガイドライン 26
奉仕プロジェクトの発足と継続 26
奉仕の種類 26
ヤングアダルト プログラム 27
レディース セクション 29
講演者を招く 29

情報／連絡事項の伝達 30
法人の設立 30
財務 30
刊行物 31
サティヤ サイ センター図書館 31
重要なリソース 32
パブリック アウトリーチ、メディア、アーカイブ、人道救助 32
Webサイトとソーシャルメディア 33
知的財産所有権 33

付録Ⅰ:
信愛の会 34

付録Ⅱ:
無私の奉仕に関するサティヤ サイ ババの教え 36
無私の奉仕とサティヤ サイ オーガニゼーション 36
無私の奉仕による効果 37
無私の奉仕をしている時の姿勢 38
無私の奉仕と神の御名の唱名 39

付録Ⅲ:
サイ霊性(スピリチュアル)教育 (SSE) のためのガイドライン 40
サイ霊性(スピリチュアル)教育プログラムの基本と定義 40
カリキュラムのあらまし —— エデュケア 40

第１章　はじめに

運営マニュアルの沿革：　国際サティヤ サイ オーガニゼーションは、50年以上前にサティヤ サイ ババの祝福と指導を受けて設立されました。2014年7月10日に、国際サティヤ サイ オーガニゼーションは、サティヤ サイ国際オーガニゼーション（SSIO）と改名されました。

2010年、サティヤ サイ ババの承認を得て、全SSIOに広く適用される一連のガイドラインを作成するためのガイドライン委員会が設立されました。『ガイドライン』ならびに『サティヤ サイ センターとサティヤ サイ グループのための運営マニュアル』は2012年8月に発行されました。本『サティヤ サイ センターとサティヤ サイ グループのための運営マニュアル』（『運営マニュアル』）は、2017年時点でのサティヤ サイ センターとサティヤ サイ グループの構造と活動の変化を反映すべく更新されています。

『ガイドライン』にはサティヤ サイ センターとサティヤ サイ グループを含めたSSIOの役員の原則、構造、慣行、活動、義務と責務が簡潔に記述されているのに対し、『運営マニュアル』にはサティヤ サイ センターとサティヤ サイ グループのプログラムと活動、および、そこに適応される規則と規定が詳細に述べられています。

運営マニュアルの趣旨：　『運営マニュアル』は、サティヤ サイ センターとサティヤ サイ グループを効果的に機能させるためのものです。『運営マニュアル』は、『ガイドライン』および各国のSSIOに関連する現地の法律で定められている規定と併せてお読みください。サティヤ サイ センターおよび／またはサティヤ サイ グループのある国の地域の宗教的および文化的伝統、習慣、状況は、サティヤ サイ ババの教えと一致している限り、適応させる必要があることが承認されています。サティヤ サイ センターのリーダーは、ここで奨励されているものとは異なるプログラムや活動を採用しようとする場合には、国の評議会（カウンシル）会長を通じてゾーン会長やセントラル コーディネーターに相談することができます。

『運営マニュアル』は、さまざまな地元の伝統、習慣、状況の下にある世界中のサティヤ サイ センターとサティヤ サイ グループにおいて、プログラムと活動の一貫性を保ち、それによって、会員、帰依者、新しく来た人がサティヤ サイ ババの愛を体験すること、そして、サティヤ サイ センターとサティヤ サイ グループでサティヤ サイ ババの教えを実践することができるようにします。『運営マニュアル』は、愛をもって実行されます。なぜなら、愛はサティヤ サイのあらゆる尽力の源であり、道であり目的であるからです。

『運営マニュアル』を読む際には、サティヤ サイ ババは新しい宗教を確立したり特定の宗教を発展させたりするために来られたのではないことを覚えておくことが重要です。サティヤ サイ ババは、事細かな宗教的儀式をサティヤ サイ センターの活動の一部にするようにとは規定なさいませんでした。その代わりに、信愛、無私の奉仕、普遍的な霊的（スピリチュアル）原理あるいは人間的価値（ヒューマン バリュー）の学習、といった霊性修行を奨励なさいました。それらが統合されたものは、人が自分に本来備わっている神性を顕現させるための道を進むことを可能にしてくれます。サティヤ サイ センターにおけるすべてのプログラムと活動は、この目的へと通じるものであるべきです。

サティヤ サイ センターのプログラムと活動

第２章

サティヤ サイ センターとサティヤ サイ グループ

サティヤ サイ オーガニゼーションの主な目的は、人が自らの内なる神性に気づくよう助けることです。

サティヤ サイ ババ、1975年1月6日

オーガニゼーションは、霊性修行の一つの手段として理解されるべきです。霊性修行という姿勢をもってオーガニゼーションを受けとめなさい。さまざまな規則を、私が課した制限であるとか、あなた方の行動の自由を束縛するものと考えてはなりません。規則は、あなた方が始めた霊性修行を進める中で、あなた方、そして他の人々を助けるために考案されたのです。

サティヤ サイ ババ、1971年12月22日

主な目的： サティヤ サイ センターの主な目的は、個々人が真我顕現に向かって霊性（スピリチュアリティ）の道を歩むことができるような環境を提供することです。そのため、どのサティヤ サイセンターにも、3つの主要な部門〔翼／ウィング〕である、信愛部、奉仕部、教育部があります。各部門は、真我顕現へと向かう3つの主要な道である、信愛（バクティ）、奉仕（カルマ）、霊的英知（グニャーナ）に相当します。この3部門は、管理上は別々になりますが、サティヤ サイ センター会長の指導と指示の下、共に働きます。

三つの道である、行為（カルマ）、信愛（バクティ）、霊的英知（グニャーナ）は、神性が内在していることに気づくために敷かれています。この三つはそれぞれ別の異なるものではありません。三つは複合しており、互いに補い合っています。

サティヤ サイ ババ、1970年5月21日

感情と行動は、情動的な進路、行動的な進路、理性的な進路という三つの進路に沿って動きます。これら三つの進路は、信愛（バクティ）、行為（カルマ）、霊的英知（グニャーナ）と言い換えることができます。第一のタイプは、すべての物事を礼拝として献じるという精神で行います。〔中略〕 第二のタイプは、奉仕を志とする行為をします。〔中略〕 第三のタイプは、生命と自然界を支配している根本原理を探求したいという精神によって動かされます。〔中略〕 これら三種は、実のところ、撚（よ）り合って一本のロープを作っている三本の紐（ひも）です。三本の紐をバラバラにすることはできません。というのは、人生と呼ばれる家にとって、信愛と無私の奉仕と霊的英知は、ハートと手と頭と同様、欠かせないものだからです。

サティヤ サイ ババ、1981年8月31日

サティヤ サイ センターとサティヤ サイ グループの監督： 国のサティヤ サイ センターとサティヤ サイ グループは、国の評議会（カウンシル）、または国の評議会（カウンシル）がない場合は調整委員会によって監督されます。本文書において、国の評議会（カウンシル）と記載されている場合には、そこに調整委員会も含むものとします。国によっては、サティヤ サイ センターとサティヤ サイ グループはそれぞれの国内地域に属し、国の評議会（カウンシル）によって任命された各地域の役員の指導を受けます。

サティヤ サイ センターとサティヤ サイ グループの結成

結成： サティヤ サイ センターあるいはサティヤ サイ グループを作りたいという人たちは、『ガイドライン』と『運営マニュアル』、および、設立認可のための申請書を入手し、必要事項を記載した申請書を国の評議会(カウンシル)に提出することができます。(国内地域のある所では、申請書は事前に各国内地域会長が目を通してから提出します。)もし、その人たちが、6ヶ月間にわたって定期的に会を開き、SSIOの行動規定と構造と慣行と活動および(適応可能である場合)『ガイドライン』に従っているならば、国の評議会(カウンシル)は、ゾーン会長やセントラル コーディネーターに、その人たちをサティヤ サイ センターあるいはサティヤ サイ グループとして認定することを推薦することができます。

サティヤ サイ センターとサティヤ サイ グループの名称： サティヤ サイ センターには、一般に、そのセンターが位置する地域社会の名前を付けます。英語が話されている国では、”Sathya Sai Centre of ××××(集会が開かれる市町名)”とするのが慣例(サティヤ サイ グループも同じ)です。他の言語においても同じ命名方式を採用するようにします。

解消と加盟： ゾーン会長は、セントラル コーディネーターや国の評議会(カウンシル)と協議の上、SSIOへのサティヤ サイ センターあるいはサティヤ サイ グループの加盟を解消することができます。これは、SSIOの規則と規定に対する継続的かつ／あるいは、きわめて明らかな違反、サティヤ サイ ババとSSIOの原理原則に反する金銭のやり取り、サティヤ サイ ババの御名を汚す行い、サティヤ サイ センターあるいはサティヤ サイ グループ、その会員、およびSSIOの利益に反する行いがあるという理由によって、要求することができます。

加盟が解消されたサティヤ サイ センターあるいはサティヤ サイ グループは、国の法律に従って解散または登録解除を申請し、義務を履行するために保有している財産および資金を処分する必要があります。保有資金は、ゾーン会長の指示に従って、SSIOの他のユニットに譲渡するものとします。

会員制

会員制： 『ガイドライン』には、サティヤ サイ センターあるいはサティヤ サイ グループの会員になるための基本的必要条件が制定されています。会員は、他のセンターを訪れて他のサティヤ サイ センターの活動に参加することはできますが、一つのサティヤ サイ センターのみの会員であるものとします。会員が退会した場合、および、サティヤ サイ センターの活動への参加を拒否する場合、あるいは、サティヤ サイ センターセンターに対する信用を失わせると思われるような行いに従事した場合、会員の資格は失われます。

会員名簿： サティヤ サイ センターは、会員名簿を保持するようにします。会員名簿は、配布するためのものではなく、内内のものであり、もっぱら運営のため、および、サティヤ サイ センターの行事について会員に連絡するために用いられます。会員名簿には、会員の氏名、性別、ヤング アダルト〔SSIOにおいては18歳以上40歳以下の男女が当てはまる〕か否か、住所、連絡先の詳細(電話番号とEメールアドレス)の記載を含みます。会員名簿は、会員の状況を報告するという目的において国の評議会(カウンシル)が保持します。

非会員： SSIOおよび／あるいはサティヤ サイ センターの中核的活動に積極的に参加しておらず、不定期にサティヤ サイ センターの行事にのみ参加している人は、会員として認められません。その人はサティヤ サイ センター会長が招集した場合にのみ、サティヤ サイ センターの会議での話し合いに参加できます。その人には、サティヤ サイ センターの運営に関する意思決定に参加したり、役員に選任されたりする

権利はありません。

サティヤ サイ センターの役員

この名と姿をもって化身した、今のこのアヴァターへの、揺るぎのない信仰を持つ男女を選びなさい。各ユニットのリーダーたちは、先見の明と切望を具(そな)えているから先導(リード)するのであり、票や財力があるから先導(リード)するのではありません。自らが得る至福のみが、彼らの求める報酬です。

サティヤ サイ ババ、1970年1月13日

役職を、権威ある地位と見なしたり、信愛に対する「褒美」と見なすべきではありません。役職は、謙虚さをもって引き受けて、愛をもって遂行すべきです。

サティヤ サイ ババ、1968年5月18日

サティヤ サイ センター委員会： 『ガイドライン』(34p)に述べられているように、サティヤ サイ センターは、5人の役員、すなわち、会長、副会長、および、サティヤ サイ センターの各部のコーディネーターとして、信愛コーディネーター、教育コーディネーター、奉仕コーディネーターを持ちます。5人の役員の義務はガイドライン(34p～35p)に記載されています。サティヤ サイ グループは、これより少数の役員を置くことができ、実際の役員の数は各グループの構成員と必要によって決定します。

サティヤ サイ センター委員会は、5人の役員、および、ヤング アダルト コーディネーター(ヤング アダルトが存在する場合には1人ないし複数)、レディース セクション コーディネーター(レディース セクションが存在する場合1名)、会計係(そのサティヤ サイ センターが会計係を任命している場合)で構成されます。委員会は、サティヤ サイ センターの運営と管理のあらゆる側面における責任を担います。指示は、理想的には、意見の一致をもって出すようにします。もし意見の一致に至ることができなかったら、会長が最終決定を下します。必要であれば、国の評議会(カウンシル)に相談することができます。

役員の制約： 『ガイドライン』のサティヤ サイ センターの役員の義務の項((34p～35p)を参照してください。

役員の任期： 『ガイドライン』の任期の項((36p)を参照してください。役員が役職を辞任した場合には、国の評議会(カウンシル)と協議の上、選出あるいは仮指名によって、残りの任期中その役職を埋めることができます。

役員の選出： 役員の選出は政治的なイベントではありませんので、働きかけがあってはなりません。会員の間で話し合いをするのが適切で望ましいことであり、話し合いの場でサティヤ サイ センターの業務への活発で建設的な参加が促進され、また、それは最もサティヤ サイ センターのためになります。会員は、無私の奉仕をする意欲のある役員を選出するために、一体性の精神で一丸となって取り組むようにします。会長、副会長、信愛コーディネーター、教育コーディネーター、奉仕コーディネーターは、役員選出プロセス(『ガイドライン』33p～34pを参照のこと)を用いて、サティヤ サイ センターによって選出されます。サティヤ サイ ババによって言明されている資質と、役員の義務と責務を話し合うようにします。適任者だけを選出(『ガイドライン』33p～34pを参照のこと)の候補にすることができます。

『ガイドライン』と以下に含まれるプロセスは、すべての役員を一度にあるいは個別に選出するために用いることができます。サティヤ サイ センターに積極的に参加している会員のみが、役員選考プロセスに参加

すること、および、選出の対象となることができます。

集会が、サティヤ サイ センターのための管理文書、たとえば、定款や規約（存在する場合）、『ガイドライン』と『運営マニュアル』に規定されている手順に従って行われること、および、その土地の法律に準拠していることは重要です。最も重要なことは、サティヤ サイ センターに私心なく奉仕するのに最も適任である人の選出を、平和的協調の中で行うようにすることです。

例外的な場合には、国の評議会（カウンシル）が、セントラル コーディネーターやゾーン会長の承認をもって、選出手順を変更することができます。各役職につき少なくとも1名の候補者を得ることが不可能な場合には、サティヤ サイ センターは、グループになること、または隣接するサティヤ サイ センターと合併することを検討するようにします。

役員の辞任および解任： 自らの役職の責務を果たさない役員は、セントラル コーディネーターあるいはゾーン会長の承認をもって、国の評議会（カウンシル）あるいは調整委員会が代表となって解任することができます。辞任した、あるいは解任された役員の後任は、特別な選出のプロセスを経ることとなります。

役員の義務： サティヤ サイ センターセンターが『ガイドライン』と『運営マニュアル』にのっとって運営されていることを確かなものとするのは、そのサティヤ サイ センターの役員の責任です。一体性、調和、協力が、正しく運営されているセンターの基盤を形作ります。意見の相違は、可能であれば、対話と妥協によって解決するようにします。最終決定はサティヤ サイ センター会長が下します。意見の相違が長引く場合には、必要に応じて、国内地域会長（いる場合）や国の評議会（カウンシル）会長に指導を受けるようにします。指導を受けた場合、またはゾーン会長やセントラル コーディネーターの指示を受けた場合には、役員と会員はその指導あるいは指示を受け入れるようにします。役員には、ハートに愛のある道徳的な人格者であること、サティヤ サイ ババの教えを日常生活で実践することによって手本を示すことが期待されます。

文化的観点

普遍的なSSIO： 理想的なサティヤ サイ センターの集会は、会員に霊的向上をもたらし、サティヤ サイ センターが存在する地域社会の人々を歓迎します。歓迎するためには、サティヤ サイ センターの集会は霊的（スピリチュアル）な基礎を持っていなければならず、儀式や一つの宗教や言語を指向するものであってはなりません。サティヤ サイ ババは万人ために来られたのですから、サティヤ サイ センターあるいはサティヤ サイ グループは特定の1つの宗教と同一視されてはいけないということを覚えておくことは重要です。

サティヤ サイ オーガニゼーションは、普遍的、霊的（スピリチュアル）なものであって、宗教的なものではない、ということを心に留めておくことが不可欠です。それゆえ、サティヤ サイ センターあるいはサティヤ サイ グループの集会には「サルヴァ ダルマ」のロゴマーク〔SSIOのロゴマーク〕だけを掲示し、礼拝の場にはサティヤ サイ ババの写真のみを祀ることを強く奨励します。火を灯すことは任意です。特定の宗教の肖像画やシンボルを祀ることは避けるようにします。地元の慣習や状況がそれを要する場合には、国の評議会（カウンシル）会長、および、必要に応じて、ゾーン会長やセントラル コーディネーターと協議の上、地元の信仰の伝統の引用句／シンボルをサティヤ サイ センターに掲示することができます。祭壇とサティヤ サイ センター全体は、凝った装飾を施すことなく、私たちの信愛の中にあるべき清らかさとシンプルさを映し出すものにします。

祝うべきお祭り： 実施が奨励されるお祭りは、サティヤ サイ ババの御降誕祭、アカンダ バジャン（世界中で信愛の歌を歌い続ける日）、グル プールニマー（霊性の師への日）、アーラーダナ マホーツァヴァム（サティヤ サイ ババに愛と帰依心を捧げる日）、そして、地元で広く祝われている宗教のお祭り、たとえば、

仏陀プールニマー（ブッダが悟りを開いた日）、クリスマス、イースターなどです。これらのお祭りは一般の人々に開放することができます。

すべての人に開かれている： サティヤ サイ センターは、信愛の歌を歌う会、適当なスタディーサークル、奉仕活動、定期的に開く公開の案内の会、あるいは、サティヤ サイ センター委員会の認可を得た他の公開の行事を行う際に、一般に開放するようにします。サティヤ サイ センターは、サティヤ サイ ババの普遍的な教えに基づいて、SSIOに新しくやって来た一人ひとりの質問に答えるよう努めます。サティヤ サイ ババは差別なく「すべての宗教の根に栄養を施す」ために来られた、ということを覚えておきます。

参加者のニーズおよび／または地元の習慣、伝統、状況に合わせるために、サティヤ サイ センターの集会において、以下は必須ではありません。

- サンスクリット語の祈りや歌。
- 肖像や偶像を祀った祭壇。
- 靴を脱いで床に座ること。

集会の種類： サティヤ サイ センターは、サティヤ サイ ババによって承認された教えと慣行に一致する限り、さまざまな種類の集会を開くことができます。たとえば、次のことが許可されています。

- サティヤ サイ ババの何らかの教えについてのスタディーサークルだけを行う会。この集会では輪になって椅子か床に座ります。
- 一つあるいは複数の言語で信愛の歌を歌う会。
- 新しく来た人のための会。この集会では、椅子に座ってサティヤ サイ ババのいくつかの側面を紹介します。
- 帰依者たちが自分の霊的（スピリチュアル）な体験、何が自分をサティヤ サイ ババに引き寄せたかなどを語る会。
- サティヤ サイ センターあるいは地域社会で行う奉仕活動を企画すること。
- SSEHV〔サティヤ サイ人間的価値（ヒューマン バリュー）教育〕および/あるいは SSE〔サティヤ サイ霊性（スピリチュアル）教育／バールヴィカス〕プログラム、および、それはどのように行うことができるかを教えるための会。
- サティヤ サイ ババが奨励なさっているジョーティ（光明）瞑想を学んで実践する会。

サティヤ サイ ババの教えに一致していて、宗教的儀式や慣行ではない霊性修行に完全に焦点を合わせる集会には、無限の可能性があります。私たちは、サティヤ サイ ババの教えは普遍的なものであるということを納得した上で始めます。

このことについては、付録 I において、選択肢を認める信愛のプログラムの概要を述べることで明瞭化を試みました。

教育部

教育部の第一の務めは、スタディーサークル、サティヤ サイ ババの教えの出版物、サティヤ サイ ババの教えに関するオーディオビジュアルの制作を通して、サティヤ サイ ババの教えの学習と実践を促進することです。地域社会でのSSEHVプログラムの実施におけるその役割については、『ガイドライン』の教育部（28p～29p）を参照してください。

スタディーサークル

スタディーサークルで身につけるべく努力すべきものは、あの作者がこう言ったとか、あの聖人がこう教えたというような知識ではありません。インフォメーション（情報）ではなくトランスフォーメーション（変容）を、インストラクション（指示）ではなくコンストラクション（構築）を目指すべきです。

サティヤ サイ ババ、1974年3月3日

サティヤ サイ ババは、霊的（スピリチュアル）な成長を得る最良の方法は、信愛と学習と奉仕を統合して実践することであるとおっしゃっています。正しい学習法は、読み、熟考し、それから日々の生活にそれを適用することであると、サティヤ サイ ババはおっしゃっています。

スタディーサークルは、サティヤ サイ センターとサティヤ サイ グループにおける主要なグループ活動です。スタディーサークルのガイドラインは、サティヤ サイ国際オーガニゼーションのウェブサイトにアップされています。

https://sathyasai.org/organisation/guidelines/study-circle〔英語〕には、ジョナサン ルーフ著 “Pathways to God”と同じような、役に立つ情報が掲載されています。さらに、上で指摘したように、愛がすべてのサティヤ サイの尽力の源であり、道であり、目的ですから、SSIOの第10回世界大会のプレ大会のために開発された『学びの手引き～愛』〔https://www.sathyasai.or.jp/mikotoba/pdf/Love2014.pdf〕〔日本語〕に掲載されている教えはSSIOの基本であり、会員全員にその教えを学んでもらうようにします。

サティヤ サイ センターやサティヤ サイ グループでのスタディーサークルに関する大切なポイントは次のとおりです。

1. 理想としては、毎週スタディーサークルがあるようにします。スタディーサークルの長さは 30 分から 1 時間とすることができます。そうすれば、すべての人が多大な貢献をすることができます。スタディーサークルのグループの人数は 15 人までに限るのが最適であり、必要であれば、複数のグループを作る準備を整えます。
2. スタディーサークルは、信愛の歌を歌うのと同じ日に行うことも、別の日に行うこともできます。
3. スタディーサークルは、ビジターにも開放されています。サティヤ サイ センターは、「公開スタディーサークル」を行うこともできます。これは、何らかのトピックについて一般の人たちを教育するために企画します。
4. スタディーサークルの教材となるものは、通常、(1)サティヤ サイ ババの著書と講話、(2)『サッティヤム シヴァム スンダラム』シリーズ、(3)オーガニゼーションが開発した資料、です。世界の主要な宗教の教え、特に、どこでサティヤ サイ ババの教えが称賛されてるかを考察することもできます。
5. サティヤ サイ センターあるいはサティヤ サイ グループは、必要であれば、連続スタディーサークルとして、毎回、サティヤ サイ ババの講話の1つ、あるいは、ヴァーヒニー シリーズの 1 冊から、1 ページあるいは何段落かを読むことに充てることもできます。また、その代わりに、複数のリソースから抜き出した特定のテーマについてのスタディーサークルをすることもできます。テーマの例は次のとおりです。
    - サティヤ サイ センターあるいはサティヤ サイ グループに所属する目的と変容の効果。
    - SSIO の規則と規定に関するいくつかの側面を理解すること。
    - 9つの行動規定と10の指針に関連すること。

- 沈黙、菜食、および、飲酒を避けること、欲望に節度を設けること〔節制のプログラム〕、瞑想、神の御名の唱名といったことの、霊的意味とその効果。
- 「ソーハム」や「ガーヤトリーマントラ」といったような、さまざまなマントラの意味と効能。
- もろもろの信仰の一元性を理解することを目的とした、多宗教というテーマ。
- 自分は解脱（真我顕現、モークシャ）を授けるために来た、とサティヤ サイ ババがおっしゃっていることについて。

6. 一番良いのは、スタディーサークルでの「進行役（ファシリテーター）」を 1 名、指名することです。その責務は、スタディーサークル全体を機能させること、テーマと教材を選ぶこと、参加を呼びかけること、参加者がスタディーサークルのルールを周知していることを確実にすること、スタディーサークルの司会をすること（もし複数のスタディーサークルのグループが必要な場合には、1 グループに 1 名の司会者を立てる）などです。
7. 考えや意見の分かち合いの促進剤となるべく、毎週、1 名の「発表者」が、5 分から 10 分程度で、手短にテーマについて紹介することができます。発表者は、テーマに関することを読んでおき、また、話し合いの内容を予想して、いくつか質問を準備してこなければなりません。一番良いのは、会員が順番で発表者になることです。
8. 話し合いの間、サークルのメンバー全員が、（たとえば時計まわりで）2、3 分、（もし望めば）話をする機会を持ちます。皆が正直に自分の意見を言いやすいようにし、誰かに対して、あるいは誰かの見解に対して、判定を下さないようにします。他の人の観点を批判することは認められていません。議論や長々と別の意見を言い合うことはやめさせます。解決に至らなかった点については、後日、読書会や論考の機会を作ることができます。
9. 取り上げたテーマについて、個々人の日常生活でどのような効果が得られたかを話す話し合いは、スタディーサークルはただ情報を集めるためのものではなく、個人の変容のための手段である、というサティヤ サイ ババの指摘を強調するための良い方法です

サイ霊性（スピリチュアル）教育（SSE）プログラム

バールヴィカス（サイ霊性教育）は、世界の正義（ダルマ）を復活させるための大きな運動の最も重要な土台です。

サティヤ サイ ババ、1978年6月6日

沿革： 当初のSSE〔サイ霊性（スピリチュアル）教育〕プログラムはインドのバールヴィカス〔子供の開花〕プログラムから始まりました。それ以来、SSEプログラムは世界中のさまざまな国で、さまざまなペースで発展してきました。当初のバールヴィカス プログラムを維持している国もありますが、それ以外の国ではSSEHV〔サティヤ サイ人間的価値（ヒューマン バリュー）教育〕プログラム志向です。このため、SSEプログラムとSSEHVプログラムを明確かつ実用的な方法で定義する必要が生じました。

S.A.I.： SSEプログラムの中心はサティヤ サイ ババです。ある講話の中で、かつてサティヤ サイ ババは「SAI」という単語は、Service・奉仕、Adoration・崇敬、Illumination・照明〔対象物に光を照らして明るくすること〕を表しているとおっしゃいました。つまり、

- Service（万人一人ひとりの中に住んでいる神への奉仕）
- Adoration（姿形をまとった神への崇敬）

- Illumination（サティヤ サイ ババの教えの中に存在する神への照明）

SSEプログラムは、S（奉仕）、A（崇敬）、I（照明）の3つの側面すべてを重視し、信愛の側面（御姿への崇敬）を含む総合的な教育を生徒たちに提供することを目的としています。

SSEHV： SSIOには、サティヤ サイ人間的価値教育（SSEHV）と呼ばれる、地域社会と学校における人間的価値プログラムがあります。SSEHVプログラムは、5つの普遍的な人間的価値と5つの教授法、そして、日常生活におけるそれら人間的資質の実際的な応用を通して、人間一人ひとりに内在する神性を引き出すことに焦点を合わせています。このプログラムは、神のあらゆる姿形も、神の無形の側面も承認し、さらには、そのどちらも信じていない人もいるということも承認しています。

目的： 両プログラムの根底にある目的は、良い人間を生み出す生来の資質の開発と実践です。SSEプログラムはサティヤ サイ ババの御姿や神のあらゆる御姿を崇敬すること（信愛のアプローチ）を含み、SSEHVプログラムは主に5つの普遍的な人間的価値に焦点を合わせています。

文化的背景： サイ霊性教育（SSE）プログラムは、登録している子供と親に霊性教育を提供しようと努めます。SSEプログラムに通う生徒たちは、以下の家庭的背景を持っています。

1. 帰依者の家庭：

出身a： インドの伝統的な家庭の出身。これはSSEプログラムの主要な層です。生徒の大半は、インド亜大陸出身のサティヤ サイの帰依者の子供たちです。多くの場合、教師も同じ出身で、身近な材料から教育内容を引き出します。

出身b： 地元の家庭（インド亜大陸出身ではない）の出身。今住んでいる国出身の親を持つ子供たちです。いくつかの国（クロアチア、ロシア、ドイツ、ブラジルなど）では、大多数の子供がこのグループに属します。しかし、全体としては、世界のSSEプログラムに参加している子供の総数のうち、ごくわずかな割合しか占めていません。

2. 他の信仰を持つ共同体の家族

出身a： インドの伝統的な家庭の出身。いくつかの国のSSEプログラムには、サティヤ サイの帰依者ではないけれどもサティヤ サイ ババの教えやインドの文化に興味がある、インドの伝統的な家庭の子供たちが含まれています。その子供たちはクラスに通っていますが、家族はサティヤ サイ センターの信愛活動や奉仕活動には参加しないこともあり得ます。

出身b： 地元の家庭（インド亜大陸出身ではない）の出身。宗教的背景が異なる人（たとえばキリスト教徒、仏教徒、イスラム教など）の家庭。サティヤ サイ センターは、SSEクラスとSSEHVクラスを組み合わせて、こうした家族との接触を図ります。

3. 上記の2種類の家庭の混合

当初のSSEプログラムには、主に帰依者の家庭（サティヤ サイ センターの会員）の子供たちがいました。最近のサティヤ サイ センターでは、帰依者の家族と、他の伝統的な信仰を持つ家庭が入り混じっています。後者のグループは、サティヤ サイの帰依者ではないかもしれませ

んが、神への信仰を持ち、さまざまな宗教的あるいは霊的背景を持っている場合があります。こうした親の中には、SSEプログラムの理解を深めるために子供を通わせる人もいれば、文化や霊性（スピリチュアル）の基本教育のために子供を送ってくる人もいます。

したがって、教師やコーディネーターが、オリジナルのバールヴィカス プログラム（インドのもの）と、SSEプログラム（世界中のサティヤ サイ センターで採用されているもの）と、SSEHVプログラム（帰依者でない家庭のためにサティヤ サイ センターあるいは公共の場で採用されているもの）を、適切に区別することが重要です。また、サティヤ サイ センターで選択したプログラムが正しく家庭に伝わっていること、および、SSEプログラムが奉仕、崇敬、照明のすべての側面にわたっていて、それによって子供たちがサティヤ サイの文化と霊性（スピリチュアリティ）を含む包括的な教育を受けられること、が重要です。

SSEのクラスに子供を通わせている他の伝統的な信仰を持つ家族を、サティヤ サイ センターの信愛の会や奉仕の会への参加に招くことはできますが、これは任意であるようにします。教師は、家族がサティヤ サイ センターの集会に参加するかどうかによって子供たちを区別してはいけません。

監督： SSIOのSSEプログラムは、SSIOの教育委員会によって監督され、2015年8月1日と3日にプラシャーンティ ニラヤムで開催された国際SSE大会の奨励事項に従っています。この大会の概要と奨励事項は、sathyasai.orgで見ることができます。

SSEプログラムの運営

実施計画： SSEプログラムは、サティヤ サイ センターが地元の参加者に適した場所で、適した時間に、ガイドラインに従って実施します。生徒のためのクラスは、毎週、通常1～2時間行われます。サティヤ サイ センターの教育コーディネーターは、SSEプログラムを、教育コーディネーターとSSE教師、サティヤ サイ センター委員会、親、国内地域および全国レベルの教育コーディネーターの間の、協力的な取り組みとして導きます。

研修： SSEの教師とコーディネーターは、生徒の人格形成に重要な役割を果たします。SSEの教師とコーディネーターは、国の評議会（カウンシル）と国のSSEコーディネーターが共催する、定期的かつ継続的な研修を受けなければなりません。研修は、上記の国際SSE大会の奨励事項にも従うようにします。リージョンあるいは国にサティヤ サイ教育協会（ISSE）がある場合には、ISSEが研修にかかわることができます。参加証書は適切な時期に交付されます。

SSEグループ： SSEプログラムは4つの年令層の生徒を受け付けます。グループは年令別に4つあります。

グループI： 6、7、8 才（1 年生から 3 年生）

グループII： 9、10、11 才（4 年生から 6 年生）

グループIII： 12、13、14 才（中学 1 年生から 3 年生）

グループIV： 15、16、17 才（高校 1 年生から 3 年生）

グループの年令分けは、ゾーン会長や国の評議会（カウンシル）の承認を得た上で、地域のニーズや文化的環境を考慮して、リージョンあるいは国ごとに調整することができます。

親： サティヤ サイ センターは、SSEプログラムにおいて、親が子供の教育に携わる、親のためのプログラムを提供することが奨励されます。こうしたプログラムの目的は次のとおりです。

1. 意義のある伝達経路を築き、保護者と教師の相互支援を奨励する。
2. SSE クラスで子供たちが経験し、学んでいることを、家庭で増進、補強、統合する。
3. サティヤ サイ センター内での強い家族意識、共同体意識を築き、子供、親、会員が参加できる活動を奨励する。
4. サティヤ サイ ババの教えを子育てに取り入れるよう親を手助けする。

必須事項： サティヤ サイ センターでのSSEプログラムについての要点は次のとおりです。

1. SSE プログラムの目的は、子供が生来持っている神性に気づくよう子供たちを助けること、子供たちが生来備えている普遍的な人間的価値（ヒューマン バリュー）を引き出すこと、子供たちがそれらを日常生活の中で実践に移すのを助けることです。
2. SSE プログラムの要旨を形作っているのは、サティヤ サイ ババの生涯と教え、5 つの普遍的な人間的価値（ヒューマン バリュー）、あらゆる信仰は本質的に一つであるということです。
3. SSE マニュアルは、SSIO の国あるいはリージョンあるいはゾーン用に開発することができます。もしくは、国は他のゾーンの適切なマニュアルを採用こともできます。SSE マニュアルは、地元のニーズに応える情報、研修、カリキュラム、および他の詳細を提供します。
4. SSE プログラムでは、さまざまな宗教の教えの背後にある哲学と一元性を教えます。子供に信仰の普遍性を吸収させることができるよう、他の宗教の修養よりもどれか一つの特定の宗教の修養を強調することがあってはなりません。家庭で信仰している宗教に対するわが子の信仰心を強めたいと願う親は、自分たちの共同体で、それにふさわしい別の手段を見つけることができます。
5. サティヤ サイ センターの役員と教師は、協力的で積極的な環境を作り出すために協力しなければなりません。

子供と親

若者の心に、祈りと、謙虚さと、他の人への愛のこもった奉仕の価値を根付かせるためには、子供の育つ家庭が最初の学校でなくてはなりません。親は、普遍的な宗教〔サナータナ ダルマ／古代よりの永遠の法〕の根本的な真理を信じる心で満ちていなければなりません。

サティヤ サイ ババ、1967年4月3日

1. サティヤ サイ センターの会員は、自分の子供に SSE プログラムを受講させることを強く奨励されます。その最大の効果が得られるよう、SSE プログラムを受講している子供を持つ会員は、サティヤ サイ センターの活動に参加するようにします。
2. 6 才未満の児童のための SSE クラスはありません。5 才以下の児童が多くいるところでは、小児活動グループ（サイ保育室）を地域社会への奉仕とすることができます。
3. 親が心配ごとを分かち合ったり、質問したりできるよう、必ず年に一度、オリエンテーションの会を開くようにします。親のグループを結成して、月に一度、保護者会を開くようにすれば、親は自分の子供が受けている教育について学習し、それが家庭での教育のサポートを供給する助

けとなり得ます。

4. SSE クラスは、子供が礼拝している信仰、宗教、霊性の師を問わず、非会員の親の子供にも門戸を開いており、SSE の教えは普遍的です（また、つねにそうでなければなりません）。非会員向けの特別なオリエンテーションの会を開くことが必要なこともあるでしょう。特例として、教育の主管役員（たとえば、リージョンや国の教育コーディネーター）と相談の上、非会員の子供向けに別個のクラスを設けることもできます。

SSEの教師

教師の第一の任務は、生徒のハートに徳を育てることです。これは学問を奨励することよりも、ずっと重要なことです。

サティヤ サイ ババ、1979年11月20日

1. 教育コーディネーターは、サティヤ サイ センター会長と国の教育コーディネーター（あるいは、もしある場合には国内地域の教育コーディネーター）と相談の上、SSE の教師を指名します。
2. 教師の役に就く前に、サティヤ サイ センターの会員は、国の評議会（カウンシル）が後援する研修を受けなければなりません。
3. SSE の教師は、サティヤ サイ ババの理念への誓約をすること、および、サティヤ サイ ババの教えを実践することによって模範となること、に同意します。教師は、教育コーディネーターおよび同僚の教師と協力して働き、見解や心配ごとや問題を分かち合い、定期的に教え子の親に連絡するようにします。
4. SSE の教師は、必要に応じて、親、ヤング アダルト、大人向けの SSEHV セミナー／ワークショップ／集会において、教育コーディネーター（および、おそらく ISSE）と共に働きます。

地域社会でのSSEHV

SSIOは、地域社会や学校において、サティヤ サイ人間的価値（ヒューマン バリュー）教育プログラムを提供します。SSEHVと呼ばれるこのプログラムはサティヤ サイ センターではなくISSE〔サティヤ サイ教育協会〕の主催で実施されますが、両者は共にその地域社会志向のパートナーとして働きます。SSEHV教師の役割を引き受ける前に、サティヤ サイ センターの会員は、SSIOまたはISSEが後援する研修を受けなければなりません。

信愛部

信愛とは、この上なく、ひとすじに、熱烈に神に執心することである、と定義されてきました。

サティヤ サイ ババ、1972年4月8日

信愛は、神の恩寵を得るための、そして、〔中略〕、実のところ、すべては神であるということを悟るための、最も容易な道です。

サティヤ サイ ババ、1995年マハーシヴァラートリ

信愛は、最も容易で、最も有効な道です。というのは、信愛はハートの霊性修行だからです。

サティヤ サイ ババ、1976年11月14日

通常、サティヤ サイ センターは週に一度、信愛の会を催すようにしますが、この集会には、信愛の歌、祈

り、瞑想（あるいは静座（サウレント スィッティング））が含まれます。同様に、サティヤ サイ センターは、週に一度、スタディーサークルを催すようにします。スタディーサークルは、信愛の会と組み合わせて行うことができます。組み合わせた場合、1時間半から2時間を要します。普遍的な信愛の会の構成は、付録 I で論じられています。

信愛コーディネーターは、サティヤ サイ センターのさまざまな信愛プログラム全般の責任を担います。それには以下が含まれます。（さまざまな面を他の人に委託することもできます。）

1. サティヤ サイ センターの建物と、シンプルで、普遍的で、ガイドラインにのっとった祭壇の維持。
2. 信愛の会（20p）、信愛の歌の練習会（22p）のコーディネート。
3. 新しく来た人の歓迎とオリエンテーションのプログラムの作成と継続（22p）。
4. サティヤ サイ センターによっては、文献やオーディオや動画を備えた図書館の維持。この務めは教育コーディネーターの責務とすることもできます。

原則

1. サティヤ サイ センターは、信仰の一元性と 5 つの人間的価値（ヒューマン バリュー）の実践を強調する霊性（スピリチュアル）団体です。サティヤ サイ ババの教えは普遍的です。サティヤ サイ ババは新しい宗教を始めるために来られたのではなく、私たちに次のことを告げるために来られました。

   この普遍的な一元の信仰、この霊的原理、この愛の道、この愛の価値、この愛の義務、この愛の責務。

   サティヤ サイ ババ、1968年7月4日

   それに応じて、私たちは、サティヤ サイ センターの活動を、とりわけ、信愛プログラムを、どの信仰を持つ、どの人生の道を歩む求道者にも、自分は歓迎されているという気持ちになってもらえるように行います。

2. 霊性（スピリチュアル）団体として、サティヤ サイ センターのレイアウトやアレンジメントは、シンプルで、サティヤ サイ ババの教えの包括性を映し出すものであるようにします。そうすれば、会員も新しく来た人も、1 つの宗教の伝統が好まれているわけではないということを理解します。サティヤ サイ ババの教えの引用句を、主要な世界の宗教の普遍的な引用句といっしょに壁に掛けることもできます。サティヤ サイ ババは、サティヤ サイ センターに自分の写真は必要ないとおっしゃっていますが、もし委員会が決めたなら、祭壇に写真を祀ることもできます。

3. サティヤ サイ センターは、1 つの儀式や特定の 1 つの信仰や宗教の修行に焦点を当てるのではなく、サティヤ サイ ババの教え、および信仰の一元性と一致するよう、普遍的な霊性修行を強調します。サティヤ サイ ババの教えと地元の伝統との間に調和を生み出すことを目的とするようにします。

4. サンスクリット語を使いすぎると、サティヤ サイ ババのメッセージは普遍的なものであり、個々人の宗教的方向とは関係なく、すべての人と分かち合うべきものであるという事実からそれることになり得ます。サティヤ サイ センターの信愛の集会は、どの信仰の背景を持つ人でも容易に理解して関わることができるやり方で実施することが、強く奨励されます。文化的観点への適切な配慮をもって、一元性に焦点を合わせます。

5. サイ ババの帰依者として、私たちはすべての宗教を学び、敬います。他の信仰に関するスタディーサークルでは、すべての宗教の一元性を強調することが奨励されます。

6. サティヤ サイ ババは、サティヤ サイ センターのすべての活動において、男女は離れて座ること

をお求めになりました。

> **信愛の歌（バジャン）や他の集まりの際、男性の帰依者は女性の帰依者から離れて座らなければなりません。インド人であろうがなかろうが、インドであろうがよその国であろうが、この規則はすべての会員に適用されなければなりません。これは帰依者にとって必要な霊性修行の一部なのです。**
>
> サティヤ サイ ババ、1980年11月22日

7. サティヤ サイ センターのすべての信愛活動、学習活動、奉仕活動は、集団で信愛の歌を歌う会も含め、会員にも新しく来た人にもビジターにも、すべての人に開かれています。
8. 文化的観点（11p）および付録Ｉの信愛の集会（34p）の項にも、信愛部門に関係する資料が載っています。

信愛の会

私の信者が歌うところ、そこに私は我が身を置きます。

サティヤ サイ ババ、1976年11月14日

皆で歌う信愛の歌には、静かに一人で祈ることとは別の目的があります。それは、人間の六つの敵である、情欲、怒り、貪欲、執着、慢心、憎しみに打ち勝つための霊性修行を共に励むことです。

サティヤ サイ ババ、1975年4月1日

皆で神の御名を歌うことは、グループのメンバーの解脱のプロセスを促進するだけでなく、聞き手にも、さらには、聞き手の輪を超えた所にいる人々にさえも、恩恵をもたらします。全世界がそのバイブレーションの恩恵にあずかることができるのです。

サティヤ サイ ババ、1982年1月26日

集団で信愛の歌を歌うことを伴う毎週の信愛の会は、多くの帰依者にとって、週のハイライトです。信愛の会は、感情を揺さぶる霊的（スピリチュアル）活動であり、そこで一つひとつの歌の意味に集中することは、人を主なる神へと近づけてくれます。この状態に到達するには、会の準備とコーディネートをする人、リードシンガー、演奏者、参加者といった、すべての人の協力が要されます。次のことを心に留めておくようにします。

1. 最も霊的（スピリチュアル）な恩恵を得るには、協力が不可欠です。目的は、一つであることを体験することです。
2. 歌い手、演奏者、等々は、自分の歌や演奏は個人的な名誉を高める機会であるなどという考えは捨てて、信愛の歌を歌うことは無私の奉仕であると見なさなければいけません。
3. 歌の歌詞の意味や考えを理解することによって、知識と英知も得ることができます。
4. バジャン リーダーは、規律と時間を守るようにします。また、信愛の情と共にリズムとメロディーを守って歌う（バーヴァとターラとラーガ）必要があります。互いへの敬意を守らなければいけません。
5. 信愛には、神に自分たちの最善の努力を捧げることが伴います。よく知られていて容易に付いて歌うことのできる歌を選びます。

サティヤ サイ センターは、信愛の会を独自に構成することができます。奨励される信愛の会の構成のアイデアが付録Ｉに掲載されています。代表的な信愛の会は、60分から90分（もし講演者がいたり、スタディーサークルを行う場合は、おそらく最長2時間）です。通常は、集団での信愛の歌（バジャン）が信愛の集会の中心となっています。

サティヤ サイ センター（信愛コーディネーターと会長の両者）は、信愛の会のあらゆる面をコーディネートする人物を1名、指名することができます。練習を含め、集団で信愛の歌を歌うことに関するあらゆる面を担当するための、信愛の歌コーディネーターを指名することも適切でしょう。

以下に、会全体についての要点と、集団で信愛の歌を歌うことに関する要点を列挙します。

1. 信愛の会を開会する少なくとも 15 分前までに、会場の準備を完全に済ませておきます。祭壇は、花、サルヴァ ダルマのシンボルマーク、ことによるとサティヤ サイ ババの肖像を祀って、シンプルに保ちます。床に座りたくない人のために、十分な数の椅子も置くようにします。もし、会員の意見が一致すれば、地域社会の主な宗教の偶像やシンボルも、信愛の空間に祀ることができます。この点については、国の評議会（カウンシル）か調整委員会に指導を求めることができます。
2. それが望まれる場合には、一曲の信愛の歌を複数の歌い手でリードすることができます。
3. 歌をリードする人と、主要な楽器（地元の文化にある楽器も、伝統的なサティヤ サイの信愛の歌を歌う時に使われているタブラー、ハーモニウムといった楽器も、使用可）用のマイクを用意することが奨励されます。少なくとも、女性のリードシンガー用に1本、男性のリードシンガー用に1本のマイクを用意するようにします。
4. 全体のプログラムと、歌われる歌の歌詞と意味を、全員が見ることができるようにします。プログラム、および、歌の本（全員が手に取れるもの）のページ番号を掲示するのに、ホワイトボードや電子機器を使うこともできます。あるいは、コンピューター プロジェクション システムを使って、歌の歌詞と意味を大きなスクリーンに映すこともできます。その場合、歌の本は必要ありません。
5. 帰依者たちは、集会が始まる何分か前には席に着いて、信愛の会が始まるまでの時間を静寂を得るために使うことができるようにします。
6. 女性は会場の片側に座り、男性はもう片側に座ります。
7. プラシャーンティ ニラヤムでは、会の終わりにアーラティー（サティヤ サイ ババへの献火）と「サマスタローカーハ」（平和の祈り）が唱えられています。アーラティーをそのまま歌うか、あるいは地元の言語で歌うかは、ゾーンかリージョンか国が決めることができます。サティヤ サイ センターは、ゾーン会長かセントラル コーディネーターか国の評議会（カウンシル）会長の指導を得て、献火をしながら、あるいは、献火をせずに、地元の言語でアーラティーを歌うことができます。
8. ヴィブーティ（神聖灰）は、全員が自由に受け取ることができます。集団での信愛の歌を歌い終わった後に配るか、あるいは、会場を出る時に人々が受け取れるようにします。
9. 信愛の会の後は、会の間に味わった歓喜と平安を各人のハートに保つことができるよう、沈黙のうちに会場を出るのが最善です。
10. 集団で信愛の歌を歌うこと
    - 集団で信愛の歌を歌う会は、通常、30分から45分間ですが、これは、サティヤ サイ センターおよび、信愛の会の長さとそこに含まれる内容によります。
    - 最も才能のある歌い手たちがリードシンガーになるようにします。そうすれば、参加者は最も霊的（スピリチュアル）な恩恵をそのセッションで得ることができます。サティヤ サイ センターが大きければ大きいほど、このガイドラインが重要になってきます。しかしながら、リードすることを熱望している人、練習会に参加している人にチャンスを与えることが適当である時にはいつでも、そのようにします。リード シンガーは正確に調子を合わせて歌うようにします。

小さなサティヤ サイ センターでは、状況に応じてこのガイドラインを緩和することができます。

- サティヤ サイ センターによっては、SSEの子供あるいはヤング アダルトがリードできるよう、1曲か2曲を確保しているところもあります。ヤング アダルトだけがリードをする会を設けることも差し支えありません。
- 歌うときには、可能であれば男女が交互にリードをとります。
- 曲は続けて歌い、曲と曲の間(ま)は最小限に抑えます。
- 曲は、リードの後に繰り返すスタイル、あるいは、斉唱で歌うことができます。リードの後に繰り返すスタイルでは、通常、歌は2回反復します。1回目はゆっくり歌い、2回目は1回目よりも速く歌います。1回目は各行を2度繰り返します。2回目は各行を1度繰り返します。長い曲は、1回目でも各行を2度繰り返すことはしません。
- 大半の参加者がよく知っていて、いっしょに歌える歌を歌います。地元の文化を反映している歌を歌うこと(たとえば地元の言語で歌うなど)、さまざまな宗教の歌を歌うことを奨励します。

集団での信愛の歌のコーディネートと練習会

次の点に気を付けることができます。

1. 信愛の歌(バジャン)コーディネーター1 名は、信愛コーディネーターとサティヤ サイ センター会長が指名し、信愛の歌のすべての面を見ます。それには、歌の選曲、シンガーと演奏者の選定、信愛の歌のレッスンを開催することが含まれます。これらの責務は、何人かで交替で行ってもかまいません。
2. 信愛の歌の練習会は、必要に応じて、定期的に(たとえば月に一度)開催することができます。これは誰でも参加することができます。レッスンは、必要とされることは何でも、たとえば、メロディーどおりに歌うこと、リズムを習うこと、新しい曲を習うこと、マイクを使って歌う練習、楽器などです。
3. 大きなサティヤ サイ センターでは、演奏者とリードシンガーは、歌う予定の曲のキー、各行の繰り返しの回数などを確認するために、必ず事前に曲の練習をしておくようにします。この練習セッションは、信愛の会が始まる 30 分前に行ってもよいでしょう。
4. 1 回の信愛の会で披露する新しい曲は 1 曲だけにして、それより多く披露してはなりません。新しい曲は、相当数の会員で事前に練習をしておくようにします。そうすれば容易に付いて歌ってもらえます。

新しく来た人とビジターを歓迎する

私たちは、どの信仰、どの宗教を持つビジターも新しく来た人も歓迎し、すべての霊的(スピリチュアル)な道を敬います

サティヤ サイ センターにやって来るビジターが、普遍的で愛のある環境を感じ取れるようにします。会場、集会それ自体、そして、各人を歓迎するやり方が、その理解を強めるようにします。ここに、ビジターを歓迎することについて、いくつかの大切なポイントをあげます。

1. ビジターは、信愛部門、教育部門、奉仕部門のどの活動にも参加することができます。

2. 誰か特定の人、たとえば歓迎委員に、ビジターを歓迎する担当を割り当てます。この役に選ばれた会員は、広い心、宗教と霊的(スピリチュアル)な事柄についての広い視野、サティヤ サイ ババのメッセージと教えと活動に関する広い知識、オーガニゼーションの活動に関する良識、そして、歓迎しようというポジティブな態度を持つようにします。
3. 歓迎委員あるいはセンターの役員が、誠意を持って新しく来た人を歓迎し、サティヤ サイ センターのプログラムや規則や慣行についての情報を提供するようにします。SSIO の構造と目的についての主要な情報も提供するようにします。新しく来た人を、笑顔で迎えること、心を開いて迎えること、優しい言葉と行動で迎えることは、とても重要です。
4. サティヤ サイ センターの会員は、ビジターを歓迎し、どこに座ればいいか、歌われる信愛の曲を歌の本の中から見つける方法、スタディーサークルの本質などを説明して、ビジターを手助けするようにします。あるいは、ビジターが持っているであろう、あらゆる質問に答えるようにします。
5. サティヤ サイ センターは、新しく来た人のための小冊子を所有して、それを他の適切な小冊子やパンフレットやビデオといっしょに、ビジターに手渡せるようにします。
6. ビジターの数によっては、サティヤ サイ センターは、毎週か隔週か月に一度、ビジターの会を設けて、信愛の会の前か後に、おそらく 30 分ほど、サティヤ サイ ババの教えの根本原理について、および、SSIO の目的と構造について、話し合うことができます。
7. ビジターを改宗させること、会員になるよう強要することは避けなければいけません。

奉仕部

無私の奉仕は、まさに信愛の本質です。

サティヤ サイ ババ、1967日3月29日

奉仕は、利己主義を治す最良の治療薬です。

サティヤ サイ ババ、1968年1月13日

無私の奉仕を最高の霊性修行であると見なしなさい。〔中略〕 けれども、無私の奉仕によって世界を改善したり作り変えたりできると信じてはなりません。それはできるかもしれないし、できないかもしれません。それは大事なことではありません。無私の奉仕の真価、その最も目に見える結果は、無私の奉仕はあなた自身を改善し、あなた自身を作り変えるということです。無私の奉仕を霊性修行として行いなさい。そうすれば、あなたは謙虚になり、幸せになるでしょう。

サティヤ サイ ババ、1967年3月29日

行為(カルマ)の道は、無私の奉仕の中に盛り込まれているものであり、サティヤ サイ ババによって唱道されている、真我顕現に到る3つの道のうちの1つです。サティヤ サイ ババは、大きな無私の奉仕の行為であれ小さな無私の奉仕の行為であれ、奉仕する相手の内に宿る神に奉仕をしているという態度でなされた奉仕は、求道者に計り知れない霊的恩恵を授ける、ということを強調なさっています。サティヤ サイ ババは、無私の奉仕は霊性修行の最高の形であるとおっしゃっています。それに応じて、サティヤ サイ オーガニゼーションが発足した当初から、奉仕部門はサティヤ サイ センターの主要な3つの部門〔翼／ウィング〕のうちの重要な部門であり続けているのです。この部門を先導するのが奉仕コーディネーターです。

原則

無私の奉仕は、自分は他者に内在している神に奉仕しているのだという態度で、どんな報いも期待せずに捧げられた時、霊的（スピリチュアル）な行為となって、霊的変容をもたらします。こうした無私の奉仕は、次の原則に従って行うようにします。

1. **一体性：** サティヤ サイ ババの欠かすことのできないメッセージは、一体性を育むことであり、そこには目的の一体性、私たちの行動の一体性が含まれます。ですから、すべての参加者は、一つであるという精神で共に働くことが奨励されます。
2. **無執着：** 好き嫌いを克服し、他者、特に自分が奉仕する相手を判定するのを避けることによって、無執着を実践します。良い働きをしたいという気持ちと、思いやりのあるハートがあれば十分です。
3. **愛と感謝：** 神はすべてのものの中に住んでいて、私たちが捧げるものは神に届くのですから、すべての人に愛をもって接し、また、相手に奉仕する機会に感謝するようにします。とりわけ私たちは、自分たちの無私の奉仕によって変容し、奉仕から恩恵を受けているからです。
4. **信頼：** 奉仕を受ける人（私たちの奉仕は、奉仕の受け手と、その人の中に住んでいる神への誓約です）への信頼と、私たちがいっしょに奉仕をする人々への信頼。
5. **友好：** 飾り気のなさ、楽しさ、共感、非暴力、そして、奉仕を受け取る人への敬意が感じられる態度によって表現される友好。
6. **安全：** すべての奉仕活動は、参加者が怪我をしたり、損傷を負ったりする危険がないことを確実にするために、十分な安全性が確認された後に行うことが不可欠です。

無私の奉仕の第1の側面は、自分の体を気づかうことです。というのは、体は神のものだからです。2番目は、親に奉仕することです。3番目は、家族に奉仕することです。4番目は、社会の貧困者、そして、動物たちにも奉仕することです。この奉仕において、私たちはサティヤ サイ センターの貧しい会員への奉仕をおろそかにしてはなりません。

無私の奉仕は社会活動だけに限られたものではありません。他人とのあらゆる係わり合いも、正しい態度で行えば、無私の奉仕となります。

無私の奉仕という霊性修行の本質は、すべての人を自分自身と見ること、すべての人の内に自分自身を見ることです。

サイババ、1975年11月14日

サティヤ サイ センターの会員は、もちろん、個々人で個別に無私の奉仕のプロジェクトを行うことができます。これは、ある種の状況にある、ある種の人々にとっては、奉仕をするための一番良い方法です。けれども、霊性修行としての無私の奉仕の効果は、他の人々といっしょに追求した時に、上がることが可能になるのです。奉仕部は、個々人が霊的（スピリチュアル）に進歩することができるような環境を提供するというSSIOの目的を頭に入れて、地域社会での奉仕プロジェクトを展開させ、実行します。

奉仕プロジェクトで働いているサティヤ サイ センターの会員は、無私の奉仕の意義を理解するようにします。それには、時折、無私の奉仕に関するスタディーサークルを行うことが役に立ちます。第10回世界大会のプレ大会のために開発された、『学びの手引き～無私の奉仕―セヴァ』〔https://www.sathyasai.or.jp/mikotoba/pdf/SelflessSeva2014.pdf〕に掲載されている資料で何回かスタディーサークルを行うことができます。また、国やゾーンで、無私の奉仕の恩恵についてさらに深く掘り下げるスタディーサークル ガイドラインを開発することも役に立つでしょう。

奉仕プロジェクトのガイドライン

1. SSIO の名の下で行う奉仕は、個々人の選択において行われるようにします。奨励はしますが、決して押し付けてはなりません。それは、個々人で、あるいは、グループで実行されます。

   力（フォース）ではなく、源（ソース）（神）があなたを鼓舞すべきです。

   サイババ、1989年10月4日

2. SSIO 内の活動は、管理も含めて奉仕であり、すべての会員が参加を奨励されます。

3. SSIO のガイドラインの原則に従って、宣伝、改宗、および、募金は、避けなければなりません。奉仕活動は自費で行わなければなりません。寄付を受け取ることはできますが、SSIO の規定と指導に則したものである場合に限ります。

4. サティヤ サイ センターの奉仕活動は、サティヤ サイ センターの会員（おそらく奉仕コーディネーターによって任命された人）がリーダーとして指揮をとるものでなければなりません。

5. サティヤ サイ センターの奉仕プロジェクトで働くボランティアは、サティヤ サイ センターあるいは SSIO の会員である必要はありません。しかしながら、その人たちは、サティヤ サイ センター会長の認可を受けるようにし、プロジェクトの担当者の指示に従わなければなりません。

6. 奉仕コーディネーターは、絶えずセンターの奉仕活動を監督して、(1) 本当に必要があって奉仕をしていること、(2) サティヤ サイ センターに、時間、資金、エネルギー、適切な研修を受けたボランティアなどといったリソースがあること、(3) 正しい姿勢で、SSIO の慣行に従って行われてること、を確実にしなければなりません。

7. 奉仕プロジェクトは、地域社会のニーズを満たすもの、ボランティアにお金ではなく時間が要されるものが最良です。何らかの目的のために主にお金や物品を寄付することを含むプロジェクトは、霊的（スピリチュアル）な活動として有効なものとはなり得ません。なぜなら、そのボランティアは奉仕する相手にかかわることがないからです。適切な調査をすることで、奉仕コーディネーターは、貧しい人々や無視されている人々、あるいは地方自治体や他の組織が十分に役立っていないという緊急の必要性を持っている人々を、特定するようにします。奉仕プロジェクトの計画は事前に慎重に行うようにします。サティヤ サイの奉仕は、奉仕を提供する際の利便性ではなく、必要を満たすものであるようにします。

8. 国によっては、奉仕活動をしている最中に人や物品に起こる可能性のある損失や損害に対して、サティヤ サイ センターが保険をかけることが必要なことがあり得ます。これは、国の評議会（カウンシル）によって適切に規定された保険の契約を通して行うことができます。ボランティアは全員、サティヤ サイ センターの会員も、そうでない人も、保険が適応されるようにします。国によっては、保険の契約をするのに、サティヤ サイ センターが奉仕プロジェクトごとに参加者の名簿を保管する必要がある場合もあります。

9. 奉仕活動の効果を保証するために、特に、地元や国の機関の中で複数のサティヤ サイ センターが作業をする場合、国の評議会（カウンシル）あるいはサティヤ サイ センターが、その中でだけ採用される行動規定を公布することができます。ボランティアは全員、その規定に従って行動します。

10. 理想的には、サティヤ サイの奉仕プロジェクトは、政府や他の組織とは別に独立して行います。サティヤ サイ センターは、必要に応じて、たとえば、老人ホームで歌を歌う、その活動の経験がある NGO といっしょにホームレスの人たちに昼食を配る、教会で医療キャンプを行うなど、サティヤ サイ ババと SSIO によって与えられている奉仕活動のガイドラインが危うくされず、良心的に従われる場合に限り、他の組織と共同で行うことができます。どこか他団体との奉仕プロジェクトへの参加を

望むサティヤ サイ センターは、国の評議会(カウンシル)の許可を得るようにします。

奉仕プロジェクトの発足と継続

奉仕コーディネーターは、サティヤ サイ センターの奉仕プロジェクトを監督(特定のプロジェクトのリーダーを他の人に委任した場合においても)します。新しい奉仕プロジェクトを決めるにあたっては、次の側面を考慮するようにします。

1. サティヤ サイ センターに、十分な資金があるか?
2. サティヤ サイ センターの会員に、そのプロジェクトを支える十分なやる気があるか?
3. サティヤ サイ センターは、そのプロジェクトを実行するために必要な知識と技能と経験を持っているか? たとえば、国によっては、人に食べ物を配る場合、食物の安全性に関する専門の研修を受けた人による監督が要されます。

これらの点を検討するために、会員ミーティングで、プロジェクトの提案と話し合いをすることができます。必要となる費用の額を述べ、会員はサティヤ サイ ババが指示なさったことに従って、自分の自由意志で寄付をすることができます。それが適切な場合には、小規模なプロジェクトを始めて、後にもっとリソースを得ることが可能になったら規模を拡張することもできます。人々に奉仕活動への参加を奨励します――頼まれずとも貢献しようという気になる人が現れることもあり得ます。新しく来た人や帰依者でない人が奉仕活動に参加するのを歓迎します。

同様に、プロジェクトの進行に伴い、奉仕コーディネーターは、プロジェクトが必要を満たし続けているか、サティヤ サイ センターによって十分に支えられているかを見るようにします。

1. サティヤ サイ センターは、提供すると公約したことを提供しているか?
2. そのプロジェクトは、まだ必要とされているか?
3. どうすれば、奉仕の受け手にとってより良い奉仕をすることができるか?
4. 会員たちは、これは地域の奉仕プロジェクトを上回る、霊的(スピリチュアル)な基盤を持つ無私の奉仕のプロジェクトであるということを、どれくらい自覚しているか?

奉仕の種類

サティヤ サイ センターは、種類の異なる複数の奉仕に従事してもよいでしょう。サティヤ サイ センターによる、よくある奉仕プロジェクトの例は次のとおりです。

1. 孤独であったり、無視されている高齢者、青年、ホームレスの人たちを助けるプロジェクト。私たちは、自分たちの最も価値のあるリソースである時間とエネルギーを差し出す覚悟ができていなければなりません。そうすることで、その人たちが失ってしまった愛を感じてもらうことができます。
2. 母なる地球のためのプロジェクト――リサイクル、再利用、植樹、海辺の清掃など。
3. 衛生、菜食、健康的なライフスタイル、薬物や飲酒や喫煙、等々の知識を高めるプログラム。
4. 高齢者、障害者、ホームレス、囚人、その他、必要とする人に、食事や教育を施すか、単に歌ったりお世話をしたりする奉仕活動。これは、病院、公立や私立の機関、相手の家、その他、必要としている人がいる、あらゆる場所で行ってよいでしょう。
5. コンピューターや職業訓練プログラム、および、アフタースクールのコース。

複数のサティヤ サイ センターのある地域社会では、奉仕プロジェクトを共同で行うことで、協調性を育ん

だり、リソースの有効利用をしたりすることができます。それによって、さらに大きな、長期的な奉仕プロジェクトに着手することが可能となります。さらには、小さなサティヤ サイ センターの会員も、プレッシャーを感じることなく大きなプロジェクトに参加することが可能となり、また、進行中の奉仕プロジェクトへのボランティアの要員を増やすこともできます。

ヤング アダルト プログラム

世界の人口の７０パーセントは「若者」で占められています。若者は明日のリーダーです。若者が将来の自分の役割をきちんと担うことができるよう教育されない限り、社会、国、世界に、平和への進展はないでしょう。

サイババ、1985年1月25日

サティヤ サイ ヤング アダルト（YA）プログラムは、18歳から40歳までの男女が、サティヤ サイ ババの生涯、教え、活動によって明らかにされた霊的（スピリチュアル）原理を学び、実践することによって、家族、地域社会、国への奉仕をする中で目的のある生活を送るよう奨励します。最も重視しているのは、霊性修行、特に無私の奉仕、そして、YAプログラムの主な目的は自分が生来持っている神性に気づいてそれを顕現させることであるということをつねに心に留めておくことを通じて、全体的な人格の発達をもたらすことです。YAプログラムは、ヤング アダルトがサティヤ サイ ババの教えに従いながら霊的（スピリチュアル）な生活を送る中で直面する、現実的な問題について話し合うためのフォーラムを提供します。

ヤング アダルトのエネルギーとバイタリティーを活かした元気なYAプログラムは、サティヤ サイ センターが活気づくのに役立ちます。ヤング アダルトは、SSIOが国の伝統と習慣を踏まえつつ国のニーズに対してより良い奉仕をすることができるよう、サティヤ サイ センターが率先していくのを助けることができます。実際、うまく運営されているYAプログラムからは、誰もが得るものがあります。

一体性： YAプログラムは、SSIOの不可欠な一部であり、独立した組織ではありません。YAには、ヤング アダルトのための霊性（スピリチュアリティ）と奉仕のプログラムを主導する機会が与えられます。YAはまた、サティヤ サイ センターの活動に参加して積極的に貢献することが期待されています。サティヤ サイ センターのリーダーたちは、YAのニーズに気を配り、他のヤング アダルトと共にYAの奉仕と霊性（スピリチュアリティ）のプログラムを支援することによって、YAたちを養うことができます。

コーディネーター： YAコーディネーターは、YAたちによって、サティヤ サイ センターの役員選出と同じプロセスを用いて選出されます。ただし、合意に至らなかった場合には、サティヤ サイ センター会長が国の評議会（カウンシル）会長に相談するものとします。YAコーディネーターは2年間の任期で奉仕し、再び選出されればもう2年間務めることができます。選出の基準には、無私が表れていること、サティヤ サイの理想に献身していること、および、SSIOでリーダーの役割を担うことのできる適性があることが含まれます。

リーダーシップ： SSIOは、サティヤ サイ国際ユース リーダーシップ プログラム（SSIYLP）という構造化されたプログラムを通じて、YAたちにリーダーシップのスキルを磨く機会を提供します。SSIYLPは、YAがSSIOでより大きな役割を果たして神の使命の道具となることによって、生活のスキルを向上させて人類に貢献するための鍵となるリーダーシップの資質を学ぶ無類の機会を、YAリーダーたちに提供します。SSIYLPは、霊性（スピリチュアリティ）を中核にして、YAを鼓舞し、やる気を起こさせ、今日の世界における人間的価値（ヒューマン バリュー）に基づいた倫理的および道徳的リーダーシップに関するサティヤ サイ ババの教えを教え込むことを目指しています。

YAリーダーはSSIOのガイドラインを遵守する必要があります。YAの年齢幅は18～40歳ですが、サティヤ

サイ センターYAコーディネーター、国内地域YAコーディネーター、および、全国YAコーディネーターは、35歳未満であることが好ましくあります。これは、経験を引き継いでいくこと、そして、一人のリーダーの任期が満了した後にYAがさらなる進展を遂げることに役立ちます。10人以上のヤング アダルトがいる大きなサティヤ サイ センター、および、国内地域や全国においては、男性のYAコーディネーターと女性のYAコーディネーターを任命することができます。

40歳以上のYAアドバイザーは、YAたちによって、サティヤ サイ センター役員の選出と同じプロセスを用いて選出されます。ただし、合意に至らなかった場合には、サティヤ サイ センター会長が国の評議会(カウンシル)会長に相談するものとします。YAアドバイザーは、まず2年間奉仕し、その後、サティヤ サイ センター会長とYAたちの合意に基づいて、その地位を継続することができます。理想的には、YAアドバイザーは以前YAコーディネーターを務めたことがあり、サティヤ サイ センターのプログラムの積極的な参加者であり続けていることが望まれます。YAアドバイザーは、YAコーディネーターとサティヤ サイ センター会長の要請に応じて、YAコーディネーターに助言と支援を提供します。YAアドバイザーは、YA集団の発展を支援することはできますが、必ずしもYAプロジェクトや活動を主導するわけではありません。

YAコーディネーターは、サティヤ サイ センター委員会の要請に応じて、YA活動に関する定期報告を提出します。YAコーディネーターは、国の評議会(カウンシル)に席を置くYAたちと共に働き、国の評議会(カウンシル)またはサティヤ サイ センター委員会から送られてきた情報や資料をサティヤ サイ センターのYAたちに配布する責務を担います。

YAプログラムの活動

YAは、自分たちの年齢に合った、自分たちの才能と自尊心を引き出して伸ばせるような活動を開発するようにします。YAの集会やプログラムには、無私の奉仕に重点を置いた、教育と信愛の活動を含めるようにします。それには次のものが含まれます。

- **信愛：** 祈り、瞑想、信愛の歌、サティヤ サイ ババの教えの学習。
- **リトリート／大会：** 個々人を豊かにするためのワークショップ、やる気を起こさせる講演者。
- **教育：** コンピューターの使用法、人間的価値(ヒューマン バリュー)教育、職業訓練、助言。
- **奉仕：** 無料食堂、災害救援、献血、医療キャンプ、サーブ ザ プラネット、パブリック アウトリーチ。
- **文化：** 音楽コンサート、劇、詩、信愛の歌のアルバム、ラジオ番組。
- **ヤング アダルト育成：** 国際的リーダーシップ研修、YA育成プログラム、LASAプロジェクト、愛のサーダナ プログラム。
- **その他：** ゴー グリーンの主導、YAスポーツ デー、メディア研修。
- **SSEプログラムへの参加：** 教えられていることの理解を深めるための感動的で創造的なアイデアを提供し、SSEのグループⅣの生徒たちがYAプログラムに移行するのを助けます。

YAは新しいプログラムや活動を開発するよう奨励されています。そうしたプログラムと活動は、サティヤ サイ ババの教えと適合しているもの、YAを行動に駆り立てるもの、YAの霊的(スピリチュアル)な旅に反映されるものであるようにします。さらに、YAはSSIOがよりいっそう国の伝統や習慣と調和できるような活動を主導することができます。例として、地元の言語で信愛の歌を作る、文化的観点に関するディベートやスタディーサークルを催す、手本となるリーダーたちの伝記について話し合ってその人物たちの教えを評価する、自国の文学について学び、話し合い、そのポジティブな価値を引き出す、といったものがあげられます。

集会は霊的(スピリチュアル)な目的のためのものなので、規律、謙遜の態度、男女は離れて座るという特徴を持ちます。

YAは、SSEHV志向のプログラムに着手する前に、国あるいは国内地域のISSEに相談し、指導を受けなければなりません。

レディース セクション

私は１１月１９日を女性の日（レディース デー）と定めたのであり、これは大変おめでたいことです。女性の日の大切さは、母性の神聖さを人々に伝え、理解することにあります。これは無私の愛の原理に基づいています。子供は敬虔さと徳という原則に基づいて育てられるべきです。女性の日は、後世の人々によって、未来永劫、祝われることでしょう。

サイババ、2001年11月19日

プラシャーンティ ニラヤムでは、11月19日を「女性の日」〔レディース デー〕として祝い、女性がその日のプログラムや祝祭などを計画、実行しています。これは、いくつかの国あるいは国内地域で、女性の活動を、さらには、サティヤ サイ センターのレディース セクションを、鼓舞してきました。それらの活動には、母として、妻として、働き手として、サティヤ サイ センターの会員としての、女性の役割に関するスタディーサークルの立ち上げ、特に女性を助けるための奉仕活動の手配、文化祭の主催が含まれています。場所によっては、毎月19日にさまざまな信愛と奉仕と教育の活動を実施して、その日を女性のために捧げています。

サティヤ サイ センターは、女性が女性のために提案した霊的（スピリチュアル）活動を実施すること、および、その活動やセクションをまとめる責務を担う人を指名することを、自由に行うようにします。プログラムを開始する前に、サティヤ サイ センター会長が国内地域会長（もしいる場合）もしくは国の評議会（カウンシル）会長に連絡を取って、国内地域もしくは国内での女性の活動を支えるためのガイドラインと支援を求めます。

講演者を招く

講演者（スピーカー）は、定例の信愛の集会においても、特別な信愛の集会においても、できる限り地元の人を立てます。近隣の地域から講演者を立てることもできます。

地元（国内）の講演者を招く場合は、講演者の所属するサティヤ サイ センターの会長や国内地域会長（任命されている場合）、あるいは国の評議会（カウンシル）会長の承認を受けるようにします。

ゾーン内の他の国から講演者を招く場合は、国の評議会（カウンシル）会長およびセントラル コーディネーターに相談するようにします。他のゾーンから講演者を招く場合は、事前にサティヤ サイ センター会長、国内地域会長（任命されている場合）、国の評議会（カウンシル）会長の間で協議を行われなければなりません。その講演者は適切であるという合意に至ったら、ゾーン会長の承認を求めます。順に、ゾーン会長は講演者の国の統括世話人（ゾーン会長もしくはセントラル コーディネーター）と協議し、その統括世話人がプラシャーンティ評議会（カウンシル）の承認を求めます。全員が同意すれば、講演者を招くことができます。

通常、旅費は、国内の場合も海外からの場合も、講演者が自己負担しますが、もし講演者にそれが不可能な場合には、招く側のサティヤ サイ センターあるいは国が旅費を払うことができます。

プラシャーンティ ニラヤム、シュリ サティヤ サイ高等教育機関（SSIHL）〔サティヤ サイ大学〕、あるいはインドのシュリ サティヤ サイ セヴァ オーガニゼーション（SSSSO）から講演者を招くことが望まれる場合には、ゾーン会長のみがプラシャーンティ ニラヤム評議会（カウンシル）に許可と援助を求めます。これは、プラシャーンティ ニラヤム、SSIHL、およびSSSSOの関連プロトコルと手順がきちんと尊重、遵守されることを確実にするために必要とされています。

情報／連絡事項の伝達

SSIO（たとえばシュリ サティヤ サイ世界財団、プラシャーンティ評議会、ゾーン会長、セントラル コーディネーター、国の評議会）からの連絡事項は、速やかにサティヤ サイ センターの会員全員に伝えることが重要です。『ガイドライン』19pを参照のこと。

迅速で正確な連絡という点においては、つねに改善の余地があります。連絡事項の伝達はいくつかの方法で行うようにします。たとえば、(1) Eメールで送る、(2) パスワードで保護されているサティヤ サイ センターのWebサイトに掲示する、(3) サティヤ サイ センターの集会でコピーを手渡す（しかしながら、これに代わる環境にやさしい方法が高く奨励されます）、(4) サティヤ サイ センターの集会で情報や連絡事項を読み上げる、などがあります。

国、リージョン、またはゾーンというレベルにかかわらず、ゾーン内のすべての情報と連絡事項の伝達を担当する連絡コーディネーターを任命することが奨励されます。連絡コーディネーターは、英語が話されていないリージョンあるいはゾーン内の国のために、翻訳者のチームを持つことができます。

法人の設立

法人化の件については、サティヤ サイ センターの所在する国の法律によって決めることができます。国によっては、法律上、法人化のための書類が必要な国も、そうでない国もあります。サティヤ サイ センターが建物を所有している、および／あるいは銀行口座を運用している場合には、法人化しなければならないことがあり得ます。こうした状況においては、法人化することで、それらの所有権を個人の名義ではなくサティヤ サイ センターの名義にすることができます。個人の名義になっていると、当人が引っ越したり、亡くなったりした時に、困難をもたらす可能性があります。

法人化は、免税資格を得るため、課税控除の対象となる寄付を受け取るため、および、たとえば大規模な奉仕活動のための物資の注文、サティヤ サイ センターの集会や公開プログラムのための会場の賃借、本や信愛にまつわる物品販売における在庫確認や会計に適ったシステムを備えた売り場の運営などにおいて有利な価格を得る、といった運営上の理由で好都合です。しかしながら、法人化に伴って、財政的責任、たとえば、監査済みの勘定の作成と提出といったものが生じます。けれども、それらは財務上の規律と透明性を高める誘因にもなり得ます。サティヤ サイ センターの法人化については、世界での厳格な決まりはありません。

法人化を望むサティヤ サイ センターは、まず、国の評議会からの許可（最終的にはゾーン会長の許可）を得ます。法人化に伴い、帳簿をつけること、政府への申告などといったことが必要となってくるでしょう。そうした必要書類の一切は、監督用として国の評議会にコピーを提出しなければなりません。

財務

寄付集めは、水と火のように、この運動とは相反するものです。もし、この点を許してしまえば、霊的進歩は消滅するでしょう。

サイババ、1971年5月14日

どんなサティヤ サイ センター活動においても、決して、会員あるいは一般の参加者から会費や寄付を徴収しません。サティヤ サイ センターは、SSIOのどのレベル〔国／地域〕にも会費を支払いません。サティヤ サイ センターは、会員の自主的な匿名による寄付を認めることによって、経費をまかなうことができます。通

常、SSIOの役員は、役員の義務を果たすための個々の費用を自費でまかないます。この規則に関する例外は、ゾーン会長が下すことができます。

特別なプロジェクトは、役員が会員と共同で話し合い、賛成を得て、それから、上記の方法によって十分な資金が調達できた後に実行する、というようにしなければなりません。もし資金が十分に集まらなかった場合には、役員が自分たち役員の間で不足を補うか、あるいは、プロジェクトを中止もしくは縮小することができます。サティヤ サイ センターは、お金、時間、人材、エネルギー、そして、技能が十分でないときには、決してプロジェクトを開始してはなりません。

財務に関することは、サティヤ サイ センター会長の指揮のもと、センターの役員全員が、全体で責任を負います。あらゆる財務処理（たとえば書籍の販売、会場の賃貸、リトリート〔静修〕の会計）は、細かく記録を付けて、サティヤ サイ センターの役員が四半期ごとに点検し、さらに国の評議会（カウンシル）がそれを点検します。サティヤ サイ センターでの書籍の販売係、あるいは大会の会計係は、役員同様、定期的に交替するようにします。財務を扱う仕事の量に応じて正当と認められる場合には、経理係を任命することができます。

もし誰かが情報を求めてきたら、サティヤ サイ センター、国の信託（トラスト）、シュリ サティヤ サイ セントラル トラストへの寄付金や、緊急援助や国の災害救助のために設立した基金への寄付金について、詳細を提示することができます。

以上の規則は、サティヤ サイ センターは可能な限り金銭を扱わない、なぜなら、それは会員の焦点を霊的（スピリチュアル）なものからそらしてしまうからである、というサティヤ サイ ババのご指示を守り続けるためのものです。

刊行物

サティヤ サイ センターは、行事日程、開催予定のプログラムに関するお知らせなどを記載した、「サティヤ サイ センター会報（あるいはニュースレター）」を発行して、配布することができます。掲載内容は、サティヤ サイ センターの役員による承認を得なければなりません。監督用に一部を国内地域の評議員（任命されている者がいる場合）あるいは国の評議会（カウンシル）にを送るようにします。

必要に応じて、こういった情報を伝達するには電子版が最も良い方法となり得ます。

サティヤ サイ センター図書館

図書館の維持は、信愛コーディネーターもしくは教育コーディネーターの責務となります。どちらの責務になるかは、サティヤ サイ センターの所在するゾーンによります。次の点を考慮するようにします。

1. 図書館には、サティヤ サイ国際オーガニゼーションの『ガイドライン』と『サティヤ サイ センターとサティヤ サイ グループのための運営マニュアル』を最低1部は置くようにします。
2. サティヤ サイ センターで掲示、提供、販売されている文献、メディア、資料はすべて、公式のSSIOのソースからのものであるか、シュリ サティヤ サイ ブックス アンド パブリケーション トラスト〔インドのサティヤ サイ出版協会〕が発行したものでなければなりません。
3. サティヤ サイ センターはSanathana Sarathi（サナータナ サーラティ）誌、および、国内地域、国、あるいはゾーンのニュースレターを購読するようにします。最新版と共に、定期購読に関する情報も閲覧できるようにします。
4. サティヤ サイ ババの生涯に関する本（サッティヤム シヴァム スンダラム シリーズ）、サティヤ サイ ババの教えと著書（ヴァーヒニー シリーズ）、サティヤ サイ ババの講話（サティヤ サイ スピークスや夏期講習からのものなど）、サティヤ サイ ババの他のさまざまな文献、センターのプログラム

の提供や回覧をします。これらがすべての集会において入手できるようにします。

5. サティヤ サイ センターは、選りすぐりの本、オーディオや動画、写真を、貸し出しのため、あるいは、必要に応じて販売するために揃えることが奨励されます。これ以外の品目に関しては、国内地域あるいは国の評議会(カウンシル)の会長の許可を得るようにします。

6. 上記の品目の他に、主な宗教の重要な聖典の、主流および広く受け入れられている出典の版を、図書館に置くことができます。

7. 販売をする場合には、どの品目も、原価あるいは可能な限りの低価格で入手できるようにしなければなりません。販売がサティヤ サイ センターの霊的(スピリチュアル)な雰囲気に影を落としたり、薄めたりすることがあってはなりません。上記の品目を販売するにあたって、サティヤ サイ センターは、関連する国の法律の一切に従わなければなりません。

重要なリソース

サティヤ サイ ババの生涯と教え、およびSSIOに関する公式の情報源については、『ガイドライン』(21p～22p)を参照することができます。

サティヤ サイ センターは、国の評議会(カウンシル)の認可を得た上で、Webサイトを開設することができます。Webサイトを持つことには、基本的に2つの理由があります。

1. 一般の人および会員に、サティヤ サイ センターについて(いつ、どこで会が催されるかなど)を知ってもらうため。

2. 会員間の連絡のため。Webサイトにおけるこの部分はパスワード(全員に共通の1つのパスワードで十分)で保護し、アクセスは会員だけができるようにします。

パブリック アウトリーチ、メディア、アーカイブ、人道救助

これらの活動の本質についての詳細な説明は『ガイドライン』(37p～38p)を参照してください。サティヤ サイ ババはご自分の帰依者のためだけに来たのではなく、全人類のために来られました――万人に教えるため、奉仕するために。共に働いて、私たちは皆、サティヤ サイ ババの道具になることができます。私たちは、宣伝しようというのではなく、認識を生み出すこと、私たちの行いと言葉によってサティヤ サイ ババの神聖なメッセージと教えを分かち合うこと、をするのです。

パブリック アウトリーチ： 国およびサティヤ サイ センターのすべてのパブリック アウトリーチ委員会は、SSIOと地元の地域社会、政府、メディア、宗教機関との間のインターフェースです。

1. ゾーン、国／サティヤ サイ センターのすべての役員は、それぞれのパブリック アウトリーチ コーディネーターと連携しながら、SSIOのパブリック アウトリーチ委員会の指導に従って、4つの分野、すなわち、異宗教間プログラム、パブリック ミーティング〔公の場で行う開かれた集会〕、地域社会への取り組み、ウォーク フォー バリューズを考案すべきです。これにより、グローバルに一貫性が保たれます。

2. 人々が私たちのアウトリーチを受け入れて参加することができるよう、地元の伝統、習慣、国の状況に配慮するようにします。サティヤ サイの教えがすべての人類への普遍的なメッセージとして伝えられることが重要です。私たちの態度と実践が、その普遍性を反映していなければなりません。

3. 以上の方策と主導計画を実行する際には、役員とアクティブな会員全員が理解と協力をするよう

にします。

4. ヤング アダルトに、特に若者を対象としたアウトリーチ活動への積極的な参加を促します。

メディア：（『ガイドライン』37pを参照のこと）。サティヤ サイ センターが伝達するすべてのことが、どのような形式あるいはどのメディア プラットフォームによってであれ、サティヤ サイ ババの教えと行い、およびSSIOを、簡潔かつ正確に説明し反映していることが重要です。次のことを覚えておくことは重要です。

1. SSIOは霊性（スピリチュアリティ）および奉仕の団体であり、それゆえ、すべてのメディア プラットフォーム（たとえば、オーディオ、映像、インターネット、Webサイト、ソーシャルメディア）は、その名前と霊的哲学と活動の神聖さを反映していなければなりません。商業マーケティング、PR戦略、および言葉には注意すること。
2. サティヤ サイ オーガニゼーションとしての私たちのメッセージが、つねにサティヤ サイ ババの教えと活動に焦点を当てていることを確実にするためには、規律を守ることが必要です。
3. いかなる状況においても、たとえ良いプロジェクトのためであっても、一般への資金の要請があってはなりません。
4. 私たちのメディアの活動は、時としてパブリック アウトリーチに焦点を合わせており、それに沿って、言葉、文章、ニュアンスは私たちの活動の目的に合ったものでなければなりません。サティヤ サイ ババは、偉大な霊性の教師であり教育者です。そして、時に、そのように紹介すれば十分であることもあります。

アーカイブ：（『ガイドライン』37pを参照のこと）

人道的支援：（『ガイドライン』38pを参照のこと）

Webサイトとソーシャルメディア

『ガイドライン』38pを参照することができます。

知的財産所有権

『ガイドライン』38pを参照することができます。知的財産所有権に関する法律や手続きは非常に専門的なものになり得るので、可能な場合は、現地の法的助言を受けることが望ましくあります。国の評議会（カウンシル）会長および任命された役員は、この権利を保護することに特別な関心を払うようにします。

神の御名の保護はSSIOの神聖な義務であるということ、そして、それを達成するための手段の一つは国際的ないくつかの部門において「サティヤ サイ ババ」という名前を商標登録することであるということ、を認識することは重要です。また、少なくとも、「サティヤ サイ人間的価値（ヒューマン バリュー）教育／Sathya Sai Education in Human Values」という名前と、SSIOの新旧のロゴを登録することが奨励されています。SSIOの出版物およびオーディオ／ビデオ録画の著作権も保護するようにします。

付録Ⅰ　普遍的な信愛の会

信愛の会に奨励される構成は次のとおりです。

1. 新しく来た人の歓迎と紹介
2. お知らせ
3. オーム（原初の音）三唱
4. 信愛の歌
5. 祈り、サティヤ サイ ババによる主の祈りを含む（『ガイドライン』を参照のこと）
6. 瞑想
7. 霊的（スピリチュアル）な話／分かち合い
8. アーラティー、ヴィブーティ マントラ、サマスタローカーハ スキノー バヴァントゥ

この集会は、サティヤ サイ センターの会員の霊性（スピリチュアリティ）の旅を手助けするためにアレンジするようにします。サティヤ サイ ババの教えと矛盾しない限り、この集会は会員のニーズを満たすためにアレンジして、国の文化と伝統を考慮に入れます。この集会は本来、普遍的なものであり、特定の宗教志向のものではありません。

注：

1. 祭壇は、シンプルでエレガントであるようにします。肖像は必要ないとスワミはおっしゃっていますが、もしサティヤ サイ センター委員会がそれを必要とする場合は、スワミの肖像を祀ります。
2. 男女は別れて座ります。これはサティヤ サイ ババからのご指示です。椅子が必要な人のために、椅子にも座れるようにしておきます。
3. この集会の構成は柔軟性のあるものです。サティヤ サイ センターは、会員と地元の地域社会の文化と伝統を考慮して、自分たちが心地よいと感じるどんな構成でも採用することができます。
4. 信愛の歌は、サティヤ サイ ババの教えの普遍性を反映するようにします。集団で信愛の歌を歌う会においては、その国の言語のバジャン（信愛の歌）を重視するようにします。サンスクリット語でも、英語でも、どの言語の歌でも、会員たちが愛しむ歌をこの会の一部にすることができます。サティヤ サイ センターは、新しく来た人と地元の人が順応して会に参加することができるよう、プログラムをアレンジしてバランスを取るようにします。
5. プラシャーンティ ニラヤム（サティヤ サイ ババのアシュラム）の伝統では、まずガネーシャ バジャン（障害を取り除く主であるガネーシャに捧げる歌）、グル バジャン（霊性の師に捧げる歌）、その次に他のバジャン〔という順番〕が要され得ますが、サティヤ サイ センターの会ではその必要はありません。サティヤ サイ センターの参加者の構成員は、プラシャーンティ ニラヤムでの参加者とはまったく異なっていることがあり得ます。参加者が歌に込められている意味に集中しさえすれば、どのような順番で信愛の歌を歌っても、内なる神との繋がりが築かれるでしょう。
6. 歌は、リードの後に繰り返すスタイル、あるいは、斉唱、もしくは両方を混ぜて歌うことができます。
7. 自国では外国語にあたる言語による祈りは、最小限に留めるようにします。もしサンスクリット語の祈りを唱える場合には、その翻訳が書かれたものを誰もが手に取れるようにして、自国の言葉で唱えることもできます。
8. 慣行は、サティヤ サイ センターの会員の文化の一部となっていないもの、ビジターにとって外国

的なものは、最小限に留めるようにします。

9. 任意の瞑想は、黙想あるいはサティヤ サイ ババの光明瞑想をすることができます。長さは、サティヤ サイ センターの会員たちにもよりますが、〔バジャン会の中に挿入する場合には〕おおかた5分から10分以内でしょう。

10. 霊的（スピリチュアル）な話は、10分か、それ以内で、サティヤ サイ ババの講話かヴァーヒニー シリーズから、いくつかの段落を朗読し、それについて話し合うこともできます。あるいは、宗教の聖典からの引用句を朗読し、それがいかにサティヤ サイ ババの教えと似ているかを話し合うこともできます。自分が鼓舞された体験や、自分が変容した体験を話すこともできます。

11. スタディーサークルは、信愛の重要な部分です。スタディーサークルは、毎週の信愛の集会と同じ日、あるいは別の日に開催することができます。

スタディーサークルとは、ただ単に本を読んで話し合って頭に情報を取り込むだけではなく、学んだ内容の実践も重視することです。〔中略〕 食べたものを消化した後で、初めて次の食事を取るようにすべきです。同様に、皆さんは、スタディーサークルで耳を傾け（食事）、学習したことを実践に移さなければなりません（消化）。

サティヤ サイ ババ 1985年1月30日

12. ヴィブーティ（神聖灰）の祈りは任意であり、自国の言葉で歌うことも考慮に入れます。ヴィブーティは、集会の最中か、あるいは帰依者が会場を出る時に配ることができます。

13. アーラティー（サティヤ サイ ババへの献火）〔の歌〕は任意であり、もし歌うなら、自国の言葉で（も）歌うことを考慮に入れます。前述のように（21p）、アーラティーは、献火をしながら、あるいは献火はせずに、地元の言語で歌うこともできます。

14. プラシャーンティ ニラヤムでは、アーラティーの後にサマスタローカーハを三唱します。下記の歌は、これをいかに異なる文化に適応させることができるかの具体例です。サティヤ サイ センターによっては、信愛の会を次の英語の歌でしめくくっているところもあります。

“May The Love We’re Sharing”

May the Love we’re sharing spread its wings, fly across the Earth, and bring new joy to every soul that is alive.（2回繰り返し）

サマスタローカーハ スキノー バヴァントゥ　May all the worlds be happy.

サマスタローカーハ スキノー バヴァントゥ

付録Ⅱ　無私の奉仕に関するサティヤ サイ ババの教え

サティヤ サイ センターでは、無私の奉仕は、信愛の歌と同様に、重要な霊性（スピリチュアル）活動です。この付録の目的は、それがなぜかを説明することにあります。まず初めに、サティヤ サイ ババご自身が生涯を奉仕に費やされたことを知ることができるでしょう。

あなた方はリーダーであるスワミに従うべきです。なぜかというと、スワミは朝から晩まで、どんな小さなことであっても自分で行い、スワミの仕事はすべて世界のためだからです。「私の人生が私のメッセージです」と、よく私が言うのには、こうした意味があるのです。

サティヤ サイ ババ、1979年夏期講習 第2講

アヴァター（神の化身）は奉仕に従事します。そのためにアヴァターは降臨するのです。それゆえ、あなたが人々に奉仕をするとき、当然、アヴァターは喜び、あなたは恩寵を獲得することができるのです。

サティヤ サイ ババ、1977年6月3日

無私の奉仕とサティヤ サイ オーガニゼーション

私たちのオーガニゼーションの会員は、学生や病人、貧しい人を助ける準備ができていなければなりません。また、それを切望していなければなりません。これは私を喜ばせる仕事であると思って〔中略〕、あなたの年月を日々、それを極度に必要としている人を助ける活動に費やして、そうすることによって、人間としてのあなたの存在を、価値のある、実り多きものにしなさい。

サティヤ サイ ババ、1974年11月23日

もし、組織立った社会が何かを達成しようという気になったなら、何事も達成不可能なことはありません。物質的なしがらみからの解放でさえ、社会に奉仕すること、社会の発展を促進することによって、勝ち得ることができます。一つであるという精神、犠牲をいとわない心、そして、思いやる優しさによって、すべての目標を勝ち取ることができます。ですから、サティヤ サイ オーガニゼーションは、大いなる熱意をもって、社会奉仕の分野で前進しなければなりません。

サティヤ サイ ババ、1981年11月19日

しかし、自分の奉仕をサティヤ サイ センターの活動に限定してはなりません。奉仕を一生の活動とし、まずは自分、そして、自分の家族への奉仕から始めます。奉仕を必要としている人への奉仕は、それが家庭でなされようとも、職場でなされようとも、地域社会でなされようとも、愛のこもった態度で、奉仕を受けている人々の神性を認識しながら行うならば、無私の奉仕なのです。愛と無私がSSIOの奉仕の基盤です。

無私の奉仕の最初のレッスンは、家庭の輪の中で学ばれなければなりません。

サティヤ サイ ババ、1981年11月19日

助けることを知らない手で数珠を繰ることに、私は何の価値も置きません。

サティヤ サイ ババ、1967年3月29日

世間から離れて、瞑想による自己救済に没頭していてはいけません。そうする代わりに、舌で神の御名を唱え、心の目で神の姿を見ながら、姉妹の間を歩いて、助けを施す機会を探しなさい。

サティヤ サイ ババ、1970年2月1日

奉仕は一生を通じたプログラムです。奉仕は休みも先延ばしも知りません。あなたに体が与えられたのは、あなたが体の力と技能を人類同朋への奉仕に捧げることができるようにするためです。すべての人の中に神を見るまで人類に奉仕しなさい。そうすれば、あなたが行うことは礼拝へと高められます。

サティヤ サイ ババ、1975年6月14日

無私の奉仕による効果

私たちは、自分が奉仕をする中で、自然と他人を助けたいと思います。そして、それが無私の奉仕の目的です。けれども、サティヤ サイ ババは、私たちは自分のために無私の奉仕をしているともおっしゃっています。ババは、奉仕の真価は、正しい態度で、霊性修行として奉仕を行った場合に限り、私たちが霊的（スピリチュアル）な道を進む上でさまざまな助けとなることにあると、おっしゃっています。ババは、無私の奉仕は、次の点において私たちの助けとなるとおっしゃっています。

- 心の制御と浄化
- 人生に愛をもたらすこと
- 自分の欲望に上限を設けること
- 万物の一元性を体験すること
- カルマの重荷を解消すること
- 万物に内在する神に気づくこと
- エゴを取り除くこと
- 神の恩寵を勝ち得ること

あなたは自分自身のためにセヴァをしているのです。あなたは、自分の中の神聖な魂（アートマ）に気づくために、エゴの誘惑を捨て去るために、そして、自分自身を知り、あなたを悩ます「私は誰か？」という問いの答えを得るために、セヴァに従事しているのです。あなたは他人に奉仕しているのではなく、あなた自身に奉仕しているのです。あなたは世間に奉仕しているのではなく、あなた自身のために奉仕しているのです。

サティヤ サイ ババ、1977年3月6日

無私の奉仕は、心を欲望へと引き寄せる邪悪な力を消し去るのに最も適した霊性修行です。

サティヤ サイ ババ、1970年10月4日

利己主義という悪を取り除くには、奉仕が最も効率のよい道具です。

サティヤ サイ ババ、1976年8月28日

仕事は、愛で満たすことによって、礼拝へと変わります。神に捧げられたとき、仕事は清められて礼拝になります。これによって、仕事はエゴから解放され、さらには、成功を求める世俗的な欲望と、失敗への世俗的な恐怖からも解放されます。

サティヤ サイ ババ、1977年6月3日

帰依者が、奉仕と愛を必要としている私の創造した生き物たちに、それらは自分の愛する兄

弟姉妹であり、私（ババ）の内にあるものが顕現した尊いものであるとして、奉仕と愛を施すことを謙虚に純粋に望むとき、私はサティヤ サイとしての自分の役目を果たすために、そのヨーギを助け、付き添い、支えるために降臨します。私はずっとそのヨーギのそばにいて、導き、その人生に私の愛を降り注ぎます。

サティヤ サイ ババ、『私の神と私』ヒスロップ著

ですから、奉仕は、恵まれない人たちの必要を満たす助けとなると同時に、私たちの世俗的な自我をも助けるのです。しかし、別のレベルでは、私たちは、私たち皆に内在する、至高の、絶対的神我である、一なる神に奉仕しているのです。そして、それが、私たちが人類の一元性に気づく助けとなるのです。

無私の奉仕という霊性修行の中核は、すべての人をあなた自身として見ること、そして、すべての人の中にあなた自身を見ることです。

サティヤ サイ ババ、1975年11月14日

あなたは他人に奉仕しているのではなく、あなた自身に、あなたの中にいる神に、他の人々の中に等しく存在する神に、奉仕をしているのです。

サティヤ サイ ババ、1981年11月21日

奉仕はまた、奉仕をしている人に全人類は一つであるということを刻み付けます。

サティヤ サイ ババ、1976年8月28日

無私の奉仕をしている時の姿勢

神はあなたに、いつ、どこで奉仕をしたかは尋ねません。神はあなたの動機と意図が何であったかを尋ねるでしょう。

サティヤ サイ ババ、1981年11月19日

助け合いと無私の奉仕という姿勢は、人々の「人間らしさ」を育て、それが、潜在している神性を顕現させる助けとなります。

サティヤ サイ ババ、1981年11月19日

奉仕が私たちの霊的成長を助けるか否かは、奉仕活動をしているときの私たちの態度が決めるのです。慢心や優越感をもって行われる奉仕は、私たちの霊的成長を妨げます。

あなたの奉仕を慢心という毒で汚してはなりません。

サティヤ サイ ババ、1971年2月21日

私は自分自身に奉仕しているのだ、自分のエゴに轡（くつわ）をかけているのだ、と感じなさい。

サティヤ サイ ババ、1964年4月21日

謙虚な奉仕に従事しなさい、そうすれば、エゴイズムは徐々に消えていくでしょう。

サティヤ サイ ババ、1978年7月25日

さらに、奉仕は結果を期待せずに行うようにします。

報いを求めて奉仕してはなりません。愛に駆り立てられるからという理由で奉仕しなさい。

サティヤ サイ ババ、1969年5月19日

奉仕それ自体が報酬です。

サティヤ サイ ババ、1976年8月28日

結果を心配してはなりません。できる限り、たくさん、効率よく、静かに、愛を込めて助けなさい。そして、その後のことは、あなたに奉仕の機会を与えた神に委ねなさい。

サティヤ サイ ババ、1967年3月29日

時々、会員たちは、必要とされていることよりも、むしろ自分がやりたいことをしようとします。また、ある仕事をより重要であると考え、他の仕事を「それほどやりたくはないもの」と考えるかもしれません。たとえば、ある人はスーパーマーケットやパン屋に食品を買いに行ったり、後片付けをするよりも、食べ物を配るほうをしたがります。このような態度は正しいものではありません。

どんな奉仕の行為も、屈辱的なものと考えてはなりません。たとえば、通りを掃くことは、あなたの地位より劣ることではありません。あなたは家庭で床を掃きませんか？ 床をごしごしこすって洗って汚れを取りませんか？

サティヤ サイ ババ、1982年12月1日

高級だとか低級だとかは考えずに奉仕しなさい。奉仕には高級も低級もありません。どの奉仕も神の目から見れば等しいのです。問題とすべきなのは、あなたが奉仕に駆けつけるときの、進んで行こうとする気持ち、喜び、手際のよさ、そして、技能です。

サティヤ サイ ババ、1967年10月4日

あらゆる奉仕プロジェクトに、進んで、愛をもって従事します。もし建設的な批判を抱いているなら、機会ができた時に奉仕コーディネーターに提案します。

無私の奉仕と神の御名の唱名

私たちは、祈り、瞑想、信愛の歌、神の御名の唱名、無私の奉仕といった、さまざまな方法で神を礼拝します。こうした方法は、さまざまな程度に、さまざまな時に、さまざまな人々の助けとなります。サティヤ サイ ババご自身が、折に触れて、さまざまな礼拝の形式を強調なさっています。しかしながら、サティヤ サイ ババの教えの中では、2つの礼拝の形式が突出しています。それは、奉仕、そして、神の御名の唱名です。この2つの霊性修行は互いを増強させます。一方は、世間での活動であり、もう一方は、内的な活動で、これは万物に宿る神を絶えず憶念する助けとなります。

頭は森の中に、手は社会の中に。

サティヤ サイ ババ、1978年11月22日

これと同じメッセージを、サティヤ サイ ババの宣言、「すべてを愛し、すべてに奉仕しなさい」の中に見ることができます。奉仕の側面は、この後半の文言において明らかであり、前半の文言は、万人に宿る神を絶えず憶念することなしには到達できません。私たちの無私の奉仕は、すべての人の中に住む神への愛の捧げものです。

あなた方は、絶えず神の御名を憶念することに従事しなければなりません。そうすることで、人類への奉仕を求めている間中、あなたは本当の神の召し使いとして留まることができます。あるいは、もっと厳密に言うなら、そうすることで、あなたは人々の中に人の本性である神を見ることができるのです。

サティヤ サイ ババ、1971年2月21日

舌で神の御名を唱え、心の目で神の姿を見ながら、姉妹の間を歩いて、助けを施す機会を探しなさい。それが最高の霊性修行です。

サティヤ サイ ババ、1970年2月1日

付録Ⅲ サイ霊性教育（SSE）のためのガイドライン

バールヴィカス（サンスクリット語で〔子供の開花教室〕サイ霊性教育）は、世界にダルマ（正義）を復活させるための大きな運動の最も重要な土台です。〔中略〕 その理想は、清らかで澄んだ意識を持つ少年少女の世代を向上させることです。現行の教科は、気高い気質と理想が育って実を結ぶ環境を作り出すことよりも重要ではありません。

サティヤ サイ ババ、バールヴィカス教師養成キャンプ 1979年6月6日

サイ霊性教育プログラムの基本と定義

1. サイ霊性教育（SSE）は、サティヤ サイ教育の霊的な心臓です。
2. 5 つの普遍的な人間的価値（愛、真実、正しい行い、平安、非暴力）、さまざまな信仰の一元性、そして、サティヤ サイ ババの生涯と教えが、SSE プログラムの基盤となっている側面です。この 5 つの普遍的な人間的価値はすべての信仰の真髄です。
3. SSE は乗り物であり、生徒たちは、それを通じて神への信愛を育て、表現します。
4. このプログラムは、真の教育は霊性教育であり、その行き着く先は良い人格である、という教えに基づいています。
5. 霊性教育は、人の神性を顕現させることによって、人生を気高いものとします。
6. 神性の顕現は、人の思いと言葉と行いを通じて表現されます。
7. SSE は、信愛と、愛と、体験の環境を作ることによって、子供の生来の善良さを育てます。
8. サティヤ サイ ババの10の指針（『ガイドライン』を参照のこと）が、生徒と教師と親のガイドとして用いられます。これらはカリキュラムのすべての面をサポートしています。

カリキュラムのあらまし —— エデュケア

エデュケアという言葉は、内にあるものを引き出すという意味です。真理〔真実〕・正義・平安・愛・非暴力という人間的価値は、すべての人の中に隠れています。人間的価値は、外から得ることはできません。内から引き出さなければなりません。しかし、人は生来持っている人間的価値を忘れてしまい、それを顕現させることができません。エデュケアとは、人間的価値を引き出すことを意味します。「引き出す」とは、人間的価値を行動に移すことを意味します。

サティヤ サイ ババ、2000年9月26日

SSEプログラムは、SSIO国際SSE会議の推奨事項として指定されているように、第一次および第二次のプログラム要素と国際SSEの枠組みに従います。

第一次の要素には次のものが含まれます。

- 神への信仰。
- 神とのコミュニケーション〔気持ちを伝えることなど〕。
- 神への愛の表現。
- 神と共に生きる。

第二次の要素には次のものが含まれます。

- 教授細目あるいはカリキュラム。
- 新しい教育学/教授法。
- 倫理と識別。
- SSEの卒業生とサイ ユースを携わるせること、および関係を保ち続けること。
- 教師／親／コーディネーターの研修。
- 親と家族の向上。
- SSEとSSIOの各部門の間の一体性と協力。

カリキュラムには次のトピックが含まれます。

1. 5つの人間的価値（ヒューマン バリュー）： 愛、真実、正しい行い、平安、非暴力。
2. 人間は兄弟であり、神は父であること。
3. 欲望に上限を設けるプログラム（節制のプログラム）。
4. 国の祝日と宗教的祝日。
5. サティヤ サイ ババの子供時代の物語と、それに付随するレッスンプラン。
6. それぞれの本の内容の紹介文を付けた子供の本の目録。
7. 聖者の物語と、英雄（ヒーロー）や無名の英雄のお手本。
8. 奉仕活動の提案とガイドライン。
9. 伝記。

すべての授業の目的は、子供の中の霊的原理を育くむことです。すなわち、子供が単なる世俗的な生活を超えていくために、他者とのかかわりの中で、自分の思考と言葉と行いにおいて5つの普遍的な人間的価値（ヒューマン バリュー）を理解して顕現させることができるようになることです。理想的な授業は、単に道徳を説いて暗記させるのではなく、霊的原理についての生徒の意識を高め、グループ活動を通じて霊的原理を直接経験することを鼓舞するものであるようにします。自分の内にある神性を顕現させるためには、日常生活の中で5つの人間的価値（ヒューマン バリュー）を実践することが不可欠です。体験的学びをさらに身につけるには、奉仕活動と野外活動が奨励されます。生徒に自分の体験を分かち合うことを奨励するようにします。

SSEの授業で用いられる構成要素

SSEの授業は、生徒を奮い立たせ、神への愛とサティヤ サイ ババの教えの実践を通して生来の神性を表明したいという願望を鼓舞するために、魅力的でダイナミックな方法で行うようにします。

以下の構成要素は、SSEの授業で頻繁に用いられています。

1. オームの復唱、祈り、御名の復唱

私は、あなた方が祈りを授業の時間割の重要な一つとすることを提案します。祈りを通じて、神の恩寵をあなたの中に引き込むことができます。

サティヤ サイ ババ、1970年5月12日

2. 静座（サイレント スィッティング）／瞑想

祈りと瞑想という２つの道は成就へと続いています。祈りは、あなたを神の御足に懇願する者にさせます。瞑想は、神をあなたのもとに下りて来る気にさせ、あなたを神へ上がろうという気にさせます。それは、一人を低いレベルに置いて、もう一人を高いレベルに置くのではなく、あなた方をいっしょにするという傾向を有しています。

サティヤ サイ ババ、1967年1月22日

3. 信愛の歌を集団で歌うこと

あなたのハートからメロディーとハーモニーを湧き上がらせ、その歌を通してあなたが表現する愛に、すべてのものが喜びを見出せるようにしなさい。

サティヤ サイ ババ、1976年11月14日

4. 授業／物語 ――霊的原理

子供の前に置く物語や記述の一つひとつを、個人の信仰と社会の調和という見地から吟味しなければいけません。これは、より善良で、より和を持った、より神に向いた生活へと子供を招くだろうか？ これが、あなたが自分に問うべき質問です。

サティヤ サイ ババ、1974年1月3日

5. グループ活動 ――実生活に応用させる活動

物語の読み聞かせをし、その物語がいかに価値を考えているかを話し合ってから、その価値を補強して生徒の体験の一部にさせるために、グループ活動を始めます。物語の後に行う活動には、2つのタイプがあります。1つはクラス全員が参加するグループ活動です。もう1つは実生活に応用させる活動で、翌週（1週間もしくは数週間）行います。

バールヴィカス（SSE）は、世界に正義を復活させる偉大な運動の最も重要な基盤です。〔中略〕その理想は、清潔で明瞭な意識を持った少年少女たちの世代を育てることにあります。実施の教授細目は、崇高な習慣や理想が育って身を結ぶことのできる雰囲気を作ることほどは重要ではありません。

サティヤ サイ ババ、1978年6月6日

年令別グループによる霊的目標

霊的（スピリチュアル）な目標はどれも、本当の意味において、各レベルを通じて一貫したものであって、それぞれ別個のものであるとは言えません。それぞれの霊的目標は、生涯にわたる霊的行動基準の実践として積み上げていくブロックの1つと考えることができます。低い年令では、その年令のグループに適した方法で、シンプルな形で考えを提示します。子供が成長したら、深みを持った概念を用いて行います。

人間的価値を、真実、正義、平安、愛、非暴力という５つのものとして数え上げるのは正しくありません。これらはすべて、基礎的な人間性の側面です。これらは、共に成長し、相互依存しており、分離することはできません。

サティヤ サイ ババ、1984年12月31日

グループⅠ（6、7、8才）

- 神への信仰と、神との関係を深める。
- 親、教師、年長者、環境を敬うことを奨励する。
- 自敬と自律を育む。
- 正直さを育む。
- 欲望に節度を設ける慣行を促進する。
- 自分、家族、学校、他人に対しての、愛に満ちた奉仕の精神を磨く。

グループⅡ（9、10、11才）

- グループⅠの各目標が統合されて、さらに深みを持ったものになりつつあることを身をもって示す。
- すべてのものには神が内在しているという理解を育む。
- 識別力を深める。
- 欲望に節度を設ける慣行を促進する。
- 気高い理想を伝える。
- 信仰の一元性への理解を育む。
- 無私の奉仕の実践を奨励する。

グループⅢ（12、13、14才）

- グループⅡの各目標が統合されて、さらに深みを持ったものになりつつあることを身をもって示す。
- アートマの実体への認識を深める。
- 道徳的な生活を強化する。
- 無私の奉仕を強調する。
- 欲望に節度を設ける慣行を促進する。
- 社会における役割意識を育てる。
- ネガティブな感情を制することを身につけることを促進する。
- より大きな地域の中で直面する心配事や難題に対して、霊的原理を応用する練習を提供する。
- 霊的原理を映し出すような、口を使っての、また、書くことでの、意思疎通の能力を高める。
- 互いへの信用と愛の精神を深める。特に親と仲間に対して。

グループⅣ（15、16、17才）

- グループⅢの各目標が統合されて、さらに深みを持ったものになりつつあることを身をもって示す。
- 霊性修行に対するやる気と、その規則正しい実践を奨励する。
- 自分と社会は互いに依存し合っているという感覚を浸透させ、社会に対する自分の役割と責任への理解を深める。

- 道徳的なジレンマに陥った時にダルマに基づいた選択ができる能力を高める。
- 人生の難関に、愛、自信、他人への理解を持って立ち向かうことによって、人間的価値を身をもって示す。
- 資源を無駄にしない習慣を身につけ、「欲望に節度を設ける」プログラム（節制のプログラム）の規律のすべてを続行する。それには以下を含む。
    - 自分でメディア、付き合う仲間、行動を選ぶ努力をしようという意識を育てる。
    - ネガティブな感情を制する練習を重ねる。
- エゴに基づく競争にそれることなく、努力を傾けるあらゆる試みにおいて卓越性を育む。
- カリキュラムのあらゆる面を応用し、リーダーの役割を通じて自分は手本であるという自覚を育てる。たとえば、自分よりも幼い子供たちに援助／助言をすること。
- 無私の愛に満ちた奉仕を、以下を通じてさらに強調する。
    - 地元や地域での奉仕プロジェクトや活動に参加する。
    - 同じ年令グループの仲間と奉仕プロジェクトを始める。

サイ霊性教育の教師

あなたが子供を教える時、あなたは自分に託された子供のために気高い仕事をしているのだ、ということを思い出さなければなりません。あなたが子供を教育している時、あなたは自分自身を教育しているのだ、と感じなければなりません。あなたが子供に知識を与えるとき、その主題に関するあなた自身の理解が深まります。あなたが教えるための情報を学ぶとき、あなたはその学びから喜びを引き出します。あなたが他人のために何かをする時、それは実際には一人ひとりの人の中にいる神になされている奉仕である、という気持ちをいつも持っていなさい。これらの精神で教師が自分の義務を行う時、教師は子供たちを普遍的な愛の精神で満たすでしょう。

サティヤ サイ ババ、プラシャーンティ ニラヤムにおける教師養成キャンプ　1983年8月

教師の信条と行い

教師たちよ、世間があなた鋭い目で見ているということを自覚しなさい。あなたの行動、あなたの実践、あなたの言葉、あなたの行いを見ているということを。もしあなたの行動が模範的でないなら、私たちのバールヴィカス（サイ霊性教育）プログラム全体が傷を負うでしょう。どうしてそのような教師が、子供を熱心にクラスに通わせることを他の親たちに期待できるでしょう？

サティヤ サイ ババ、スピリチュアル サーダナ　1978年

SSEの教師とはどんな人でしょう？ サイ霊性教育の教師は、サティヤ サイ センターの会員であり、サイの教えをよく知っています。サイ霊性教育の教師は、真我顕現への道の上級生です。サイ霊性教育を教えることは、浄化と覚りを目指す、本人の霊性修行の一部です。

教師は、生きた手本として、子供の人生の模範として、奉仕します。ですから、サイ霊性教育のプログラムに関連して、教師はサティヤ サイ ババの教えを信じ、サティヤ サイ ババが詳述なさっている霊的原理を生きるようにします。

教師のガイドライン

- 導きを祈る。
- サティヤ サイ ババの理想を誓う。
- きちんとサイ霊性（スピリチュアル）教育の教師としての研修を受ける。
- 子供たちを自分の実の子と見なす。
- それぞれの子供に必要なことを見極める。
- 子供の進歩のレベルに寛容になる。
- 子供に自信をつけさせる。
- 教えるときにはポジティブなアプローチを用いる。
- どの子供も皆レッスンを理解しているかどうかを確認する。
- 規律を守らせる。
- 親と連絡を取る。
- あらかじめ教材の準備をしておく。
- 時間を厳守する。
- 霊的真理の教えを伝えられるポジティブなクラス環境を育む。
- 平等観と、広く受け入れる心を示す。

両親を引き入れる

年若い子供の心に、祈り、謙遜、他者への愛に満ちた奉仕の価値を教え込むには、家庭が最初の学校であらねばなりません。両親が、すべての宗教の基本である普遍的な真理への信仰で満ちていなければなりません。

サティヤ サイ ババ、1967年4月3日

子供へのサイ霊性（スピリチュアル）教育プログラムの永続的な効果は、親の参加にかかっています。サイ霊性（スピリチュアル）教育の教室で教えたことは、親が教師とサイ霊性（スピリチュアル）教育の活動をサポートし、家庭でその教えを進んで補強しようとする場合に限り、効果をもたらします。

教師と両親の間の公約と責任

彫刻家は自分の望む姿に石を彫りますが、生徒はその石のようなものです。ごつごつした石から美しい作品を生み出すのは彫刻家です。親と教師は、自分たちが育てる責任のある生徒の姿かたちを形作らなければならない彫刻家です。

サティヤ サイ ババ、1986年1月20日

1. 教師は、サティヤ サイ センターと協力して、霊的（スピリチュアル）で経験的な教育プログラムを提供し、それによって、子供たちがサイ霊性（スピリチュアル）教育プログラムのガイドラインに従って神聖な人間性を伸ばすことができるようにする。
2. 親は、家庭で SSE プログラムの目的と目標を進んで補強すること、子供を毎回 SSE クラスに出席させること、予定されている定期的な活動に参加させることに、同意します。

3. 教師は、時おり両親と面談し、子供の進歩を話し合うようにします。また、特別な機会に両親を招いて、教室に座ってもらうようにします。

4. 教師は、レッスンプランや書面での連絡、あるいは、教師と親が相互に受諾し得る方法を通じて、定期的に親にクラスの目的と目標を伝えます。

教師たちよ、もし子供が授業を休んだら、家に電話して、なぜその子が授業を休んだのか確かめなさい。

サティヤ サイ ババ、プラシャーンティ ニラヤムにおける教師養成キャンプ 1983年8月

教師に向けたサイの言葉

Q 教師の目的は何ですか？

A 生徒たちは、非常に繊細で純粋なハートを持っています。生徒には神聖で清らかなものを与えなさい。〔中略〕 あなたのハートを愛で満たしなさい。そうすれば、あなたは教えるにふさわしくなります。あなたが折檻(せっかん)せざるを得なくなった時でさえ、愛から行いなさい。愛をあなたの案内役となる星にしなさい。

サティヤ サイ ババ、スピリチュアル サーダナ1978年

Q どうすれば折檻に対してポジティブなアプローチをすることができますか？

A 教え子を嘲笑(ちょうしょう)し、叱責し、あるいは折檻しようとするとき、教師は自分がその子供の立場になった場合を想い描き、自分が生徒だったら、それと同じ状況でどういうリアクションをとるかを推定するようにしなければいけません。この種の自問はとても役に立ちます。

サティヤ サイ ババ、1984年3月23日

Q サイ霊性(スピリチュアル)教育の教師の責務は何ですか？

A 教師は、子供が生まれ持った才能と素質が花開くよう、教え子一人ひとりを手助けし、その子の中に隠れている可能性を認識する努力をしなければなりません。苗木を植えるとき、あなたは水と堆肥(たいひ)を与えます。苗木によく日が当たること、風通しがよいことを確実にします。こうした手助けの一切がありながら、その苗木が、風、土、堆肥、水のほうに向かないとしたら、それは驚くべきことです。その場合、苗木は成長して、撒かれた種と同じ木になります。教師として、あなたは自分が子供だった時にあなたが自分の特性の維持と促進のために費やした努力を思い返しなさい。そのことを心に留め、同じ課題と目的を持つ生徒たちに的確に対応しなさい。

サティヤ サイ ババ、1984年3月23日

Q サイ霊性(スピリチュアル)教育の教師から子供たちへのメッセージの真髄は何ですか？

A 私たちを導き守っている神がいることを確信しなさい。感謝と共に神を思い起こしなさい。自分を純粋にさせてくださいと神に祈りなさい。すべてを愛し、すべてに奉仕しなさい。善良な仲間と交わりなさい。礼拝の場と、神聖な人々を訪れなさい。

サティヤ サイ ババ、1967年1月1日

Q 教師が自ら培うべき性質は何ですか？

A 何にもまして、教師は寛容さを持ち、穏やかで平静な気質を備えていなければなりません。環境による打撃に、動揺することなく対処できるようでなければなりません。〔中略〕 他のあらゆる方法では功を奏さず、どうしても子供や親に厳しく話さなければならなくなったときには、ハートを柔らかくし、ハートが偏見や反感で固まらないようにしなさい。

サティヤ サイ ババ、1978年6月6日

Q 子供の中に培うべき性質は何ですか？

A 子供は、恐れと、謙虚さと、信じる心を持っていなければいけません。何への恐れでしょう？ 正しくないことをすること、嘘に陥ることへの恐れです。誰に対する謙虚さでしょう？ 年長者、教師、親に対しての謙虚さです。何を信じる心でしょう？ 神、自分の強さ、自分の勝利を信じる心です。

サティヤ サイ ババ、1969年5月1日

Q 教師が、時折、他の教師の欠点を見つけることがあります。それに対してどう対処したらよいでしょうか？

A 教師（バールヴィカス グル）は、嫉妬を募らせたり、他人の欠点を見つけることに耽（ふけ）ったりしないようにしなければなりません。教えることに着手できるのは、もっぱら自分の中からそうした悪習を取り除いた後です。もし教師が他の教師の悪口を言って、いさかいや派閥意識を煽（あお）るようなことがあれば、子供たちは決して善くならないでしょう。ですから、今すぐに正しい道に従う決心をしなさい。

サティヤ サイ ババ、1979年11月21日

教師（グル）は、憎しみや妬（ねた）み、また、それらと同様の悪徳という雑草が自分のハートに根付かないよう、油断なく警戒していなければなりません。政治の分野には、そうした雑草が手がつけられないほど広がっており、他の分野にも忍び込んできています。教師は対抗グループを作るべきではありません。教師のなかには、自分の業績を誇ったり、他の人が賞賛を得ると嫉妬したりして、非難の応酬にふける者もいます。他の人たちを自分の兄弟姉妹と見なしなさい。というのは、アートマン〔真我〕として見れば、すべては一つだからです。

サティヤ サイ ババ、1979年11月20日

SATHYA SAI INTERNATIONAL ORGANISATION